

履修要項

2020

京都先端科学大学
経済経営学部

経済学科 Economics

経営学科 Business Administration

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー

<建学の精神>

本学では、未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出します。

本学では、これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践します。

本学は、人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していきます。

<建学の精神の実践>

未来社会を支える人材は、多様な価値観の存在する世界で活躍します。

本学は、未来社会の姿を見通し、起こり得る新たな課題を洞観し、現在の諸課題と併せて世界に率先して解決する教育・研究活動を実践します。

世界で通用する先進性・多様性・倫理観と、専門的知識・創造的思考力・洞察力・俯瞰力・幅広い教養を兼ね備えて、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材を育てます。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学は、建学の精神において、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材」の育成を教育の目的にしています。そのために、志望学部・学科の教育内容を理解した上で、学問の探究と実践、並びに技能の向上を目指し、グローバル社会に必要な市民教養を身につける意欲を持つ人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校等において履修する科目についての基礎的な知識や技能を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・科学、文化、社会、自然、健康などの事象に関わる学問領域について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・学問や技能に対する強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識や技能の修得のために、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

- 1.1 教育課程として、大学共通コア科目および各学部学科専門科目を配置します。
- 1.2 大学共通コア科目では、汎用的能力の中核的な力として、未来展望力・教養、基礎学力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得することを目的とし、修得に必要なレベル・アーツ科目を配置します。
- 1.3 専門科目は、各々の学部学科の学修を活かした進路に則して配置され、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

- 2.1 (学修方法) 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。
- 2.2.1 (学修過程) 大学共通コア科目では、汎用的能力の修得に必要なレベル・アーツ科目を段階的に学修します(健康医療学部の看護学科・言語聴覚学科は独自のカリキュラムを実施します)。

- 2.2.2 1 年次には、スタートアップ科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行います。
- 2.2.3 1 年次および 2 年次には、基礎的な日本語能力・数的処理能力・IT 技能の修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行います。
- 2.2.4 1 年次から 3 年次には、社会人として有用な英語力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語を学修します。
- 2.2.5 2 年次からは、教養および課題発見力・解決力を育む未来展望科目で現代社会の諸問題を学際的に学修します。
- 2.3 (学修過程) 専門科目では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、各学部学科で設置されるコース・プログラムの下で段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

- 1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

- 2.1 適切な方法を用いて必要な情報を収集し、活用できる。
- 2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

- 3.1 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。
- 3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

- 4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
- 4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3. 教育課程レベル (学部・学科)

卒業論文、単位取得状況、GPA、資格の取得状況などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 外部テスト 学生満足度調査 ポートフォリオ (マイステップ) 課外活動の状況 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 就職率 資格・免許取得率
教育課程 (経済経営学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 取得単位数 GPA 外部テスト インターンシップ成果報告会 学外での研究発表会 ビジネス・プランニング・コンテスト 成果物の展示 学生論集への掲載 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格取得者数
教育課程 (人文学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 取得単位数 GPA 外部テスト アンケート 学生満足度調査 実践成果報告会 卒業論文中間報告会 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職・進学率 資格・免許取得率 卒業アンケート
教育課程 (健康医療学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 取得単位数 GPA 外部テスト 実習評価アンケート 企業アンケート ポートフォリオ (マイステップ) 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格・免許取得率 国家試験合格率 卒業アンケート
教育課程 (バイオ環境学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 取得単位数 GPA 実習評価アンケート 企業アンケート 学生満足度調査 課外活動状況 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格取得率 卒業生アンケート調査
教育課程 (工学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 留学生比率 	<ul style="list-style-type: none"> 取得単位数 GPA 外部テスト 企業アンケート 学生満足度調査 プレキャップストーンプロジェクト報告書 学外コンテスト ポートフォリオ (マイステップ) 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 キャップストーンプロジェクト報告書 もしくは研究室プロジェクト報告書 就職率 大学院進学率 卒業アンケート
科目	<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育 英語プレースメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価 成果報告会 外部テスト 授業評価アンケート 企業アンケート 	

履修要項とは

入学から卒業までの間に、学則および履修要項に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。この『履修要項』には、学修計画を決定するために必要な情報をすべて掲載しています。熟読して、卒業までの学修の指針として活用してください。この冊子の配布は入学時のみですので、紛失等のないよう活用してください。

京都先端科学大学 経済経営学部 履修要項目次

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー	3	第2章 経営学科	
覚えてほしい大切なこと		教育目的と3つのポリシー	49
アドバイザー制度	6	カリキュラム	51
教員との連絡	6	授業科目一覧	57
「先端なび」～学生個人向け専用サイト～	6	履修モデル	62
大学からの連絡	6	第3章 経済学科、経営学科共通	
授業を欠席する場合の注意について	6	公務員コース・航空観光コース	67
やむを得ない欠席となる事由	7	AIP【アドバンスト・インターンシップ・プログラム】	68
補習の受講について	8	GIP【グローバル・インターンシップ・プログラム】	69
リメディアルクラスの受講について	8	第4章 大学共通	
SLS（スポーツ・ライフ・スキル）の受講について	8	インターンシップ・プログラム	70
教務センター	8	大学コンソーシアム京都 単位互換制度	71
第1部 履修の心得		国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）	72
I. 履修をはじめるとあたって	9	海外留学・語学研修	74
II. 授業科目の開設について	10	キャリア・就職支援体制	76
III. 履修登録	12	付録	
IV. 出席管理システムについて	14	学則、学費規程、学位規程、学生の懲戒に関する規則	
V. 試験	15		
VI. 単位認定と成績	19		
VII. GPA について	22		
VIII. 学修ポートフォリオについて	22		
IX. 卒業と学位	23		
X. 学籍	24		
《外国人留学生の方へ》	27		
第2部 教育課程			
経済経営学部 教育目的と3つのポリシー	28		
第1章 経済学科			
教育目的と3つのポリシー	30		
カリキュラム	32		
授業科目一覧	38		
履修モデル	43		
AFP 資格講座	48		

覚えてほしい大切なこと

アドバイザー制度

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任がアドバイザーとして指導を行います。担任・副担任は、みなさんのさまざまな相談に応じ、修学・生活上の問題解決のための助言を行います。

教員との連絡

専任教員は、研究室で学生が教員に相談できる時間として毎週オフィス・アワーを設けています。教員との連絡・相談は、授業前後やオフィス・アワーの時間を利用して行ってください。オフィス・アワーは「先端なび」で確認できます。この他にも、研究室に在室している時間は相談を受け付けます。

非常勤講師とは、授業時にしか会うことはできません。

また、教職員の住所等は理由に関係なく一切公開しません。

「先端なび」～学生個人向け専用サイト～

「先端なび」は、パソコンのWebブラウザ、携帯サイトを使用して、様々な学生生活に関わる情報を学生個人向けに提供します。携帯電話やスマートフォンでは、右のQRコードをご利用ください。



◇諸連絡 ◇各種案内 ◇休講・補講情報 ◇呼び出し情報 ◇履修登録、シラバスの参照
◇各人の授業時間割の参照 ◇出欠状況 ◇課題（レポート等）の確認・提出
◇住所等届出事項の変更 ◇面談予約 ◇就職関係 など

※「先端なび」の「メール設定」画面にて自分のメールアドレスを登録しておく、と、掲示された情報がメールでも配信（転送）されます。

大学からの連絡

学生のみなさんに対する連絡は、原則「先端なび」を通じて行います。毎日必ず「先端なび」を確認してください。「先端なび」に掲載したものは、全学生に周知されたものとして取り扱います。

授業を欠席する場合の注意について

1. 単位修得のための基本的な授業出席要件

履修科目の単位を修得するには、授業にしっかり出席して学修を行うことが大前提となります。本学で開講されるすべての科目について、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、その科目の単位は認定されません（本学に「公欠」はありません）。（注1）なお、1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。複数回の遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 本学が指定するやむを得ない理由で授業を欠席した場合の代替課題の請求

本学が指定するやむを得ない理由（次頁表参照）で欠席する場合は、欠席2/15回分まではその授業で実施された小テスト等についての代替課題（代替課題を提出しても出席にはなりません、失った点数を回復できる機会が与えられます）を請求できます。（注2）代替課題の請求には、原則として1週間以内（次回の授業まで）に科目担当教員に証明書（次頁表参照）を添えて申請書を提出することが必要です。

3. 出欠要件がさらに厳しい科目とその要件

以下に示す必修科目については、学修効果を確保するために、さらに厳しい出席条件を課しています（他に、各学部専門科目でも厳しい条件を課すものがあります）。これらの必修科目では、15回ある授業の内、2回以上欠席した場合は、その科目の単位は認定されません。ただし、本学が指定するやむを得ない理由（次頁参照）で欠席する場合は、欠席2/15回分までは代替課題等を請求でき、課題等を提出すれば出席とみなされます。代替課題の請求には、原則として1週間以内（次回の授業まで）に科目担当教員に証明書（次頁表参照）を添えて申請書を提出することが必要です。

ただし、運用ガイドラインに沿ってこれからの対策を講じたにも関わらず、さらにやむを得ない事情が発生した場合の取扱いについては、指導担当教員（ゼミ担当教員など）に相談すること。

該当科目

スタートアップゼミⅠ・Ⅱ

情報リテラシー

日本語リテラシーⅠ・Ⅱ

数的処理Ⅰ・Ⅱ

英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

キャリアデザインⅠ・Ⅱ

SLSⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（バイオ環境学部はSLSⅠ-B・Ⅱ・Ⅲ）

教務センターから担当教員への取り次ぎは行いません。また、期日を過ぎた申請書は受理されません。万が一、欠席の扱いについて担当教員との間で問題が生じた場合は、ただちに教務センターに申し出てください。最終的な判断は教務センター長が行います。

（注1）障害を持つ学生に対して、合理的配慮に基づいて個別の学修支援を行う場合は除きます。

（注2）看護学科、言語聴覚学科の独自で開講される科目については、代替課題等の申請制度が適用されない場合があります。

やむを得ない欠席となる事由

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から 5 日、解熱から 2 日経過していることが必要
2	公共交通機関の運休・遅延	運休・遅延証明書	
3	2 親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、会葬礼状など	慶事は 1 日（当日）
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での交通事故・故障・交通渋滞による遅延は含まない。
5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	1 以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

補習の受講について

「英語」及び「英会話」については、日々の授業に対して補習授業が開講されます。補習受講の対象者となった場合は、速やかに受講手続きを行い、必ず受講してください。

リメディアルクラスの受講について

「英語」及び「英会話」については、各学期末に単位修得要件を満たさない学生に対して、リメディアルクラスが開講されます。リメディアルクラスの受講対象者となった場合には、速やかに受講料手続き（有料）を行い、必ず受講してください。

SLS（スポーツ・ライフスキル）の受講について

SLSについては、看護学科・言語聴覚学科以外は京都亀岡キャンパスで開講します。受講時間に合わせて往復ともSLS専用の無料キャンパス間バスを増便しますので、利用すると便利です。このバスは受講人数に合わせて運行していますので、乗車マナーを守り、後部座席から詰めて着席してください。

教務センター

教務センターでは、履修登録を始め様々な手続きについてアドバイス等を行っています。大学には教務センターの他にも多くの窓口があり、目的に応じて異なります。まずは教務センターへ問い合わせてください。必要に応じて窓口を案内します。

《京都太秦キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

《京都亀岡キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるとにあって

1. 大学の授業

大学は「学生が自主的に学ぶところ」です。つまり、一方的に教えられるというのではなく、自ら考え、自分の意見を形成していくところです。

4年間を通じての学修プランを立て、卒業時には「この点については特に学修した」と言えるようになることが必要です。学修は自分のためにするものです。また、文章を書く力、議論をする力、深く考え学修する力、新しい発想を創造する力等々は、社会に出て非常に大切な事柄であり、大学の授業を通じてこれらの力を向上させる努力が大切です。

2. 受講時のマナー

大学の授業において守るべき最低限のマナーには次のようなものがあります。みなさん自身で集中して受講できる環境をつくりましょう。

- ◇ 私語をしない。
- ◇ 携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー等は、指示がない限り使用しない。
- ◇ 途中入退室をしない（手洗いに行く場合や体調不良・通院などの事情がある場合は科目担当教員に申し出ること）。
- ◇ 原則、飲食をしない。
- ◇ 教室内では帽子を取る（一般社会でのルールにならう。事情があって帽子着用の必要な学生は事前に科目担当教員に申し出ること）。
- ◇ 学生証の貸し借りをしない（発見した場合は双方に厳重注意をします）。

マナーを守らない学生には、科目担当教員がその都度注意しますが、改善が見られない学生については、退室を命じる、当該科目の単位を認定しないなど、厳しく対処します。学修意欲を持って授業に臨んでください。

3. 単位制度について

(1) 単位制

大学での学修は単位制です。単位制とは、すべての科目に単位数が定められており、その科目の授業を受け、合格した場合に修得したと認定され、その単位数が与えられる制度です。修得単位が一定の要件を充たした場合に、卒業が認定されます。

(2) 単位とは何か

単位とは、学修の量を数字で表すものです。

- ① 講義・演習は、15～30時間の授業時間をもって1単位とします。

(例) 講義科目の単位算出

90分の授業は2時間とみなして計算します。2時間×15回=30時間の授業時間数となります。15時間の授業時間をもって1単位とみなす科目では、30時間で「2単位」になります。

- ② 実験、実習、実技は、30～45時間の授業時間をもって1単位とします。

- ③ 自主的学習時間と単位の関係

1単位の内容は45時間の学修を標準としています。

15時間の授業をもって1単位とする場合には、1単位について30時間の自主的学習を期待しています。

30時間の授業をもって1単位とする場合には、1単位について15時間の自主的学習を期待しています。

(例)

2単位の講義・演習科目 (6時間×15週=90時間=2単位)		
事前学習 2時間	週1回授業 2時間	事後学習 2時間
授業1：自主学習2		

1単位の実験・実習科目 (3時間×15週=45時間=1単位)	
週1回授業 2時間	事前・事後学習 1時間
授業2：自主学習1	

Ⅱ. 授業科目の開設について

1. セメスター制

セメスター制とは、半年を1学期とするもので、1年間を春学期と秋学期の2つの学期に区分し、以降4年次まで計8学期に区分して教育課程（カリキュラム）の編成を行うものです。年次、学期、セメスターの関係は、次のとおりです。（春学期入学の場合）

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

2. 授業時間

京都太秦キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
8:50～10:20	10:30～12:00	12:40～14:10	14:20～15:50	16:00～17:30

京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:30～11:00	11:10～12:40	13:20～14:50	15:00～16:30	16:40～18:10

3. 休講

- (1) 大学または科目担当教員のやむを得ない事由により、授業を休講とすることがあります。休講連絡は「先端なび」で行います。
- (2) 休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務センターに問い合わせせて指示を受けてください。

4. 気象警報発令あるいは交通機関に遅延等があった場合の授業および試験の取り扱い

(1) 気象警報が発令された場合

京都府南部京都・亀岡（京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町のいずれか）に「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」のいずれかが発令された場合は、本学が開講する授業および定期試験の対応は、以下のとおりとなります（すべてのキャンパス等が対象）。

警報解除時刻	授業および試験開始講時
7時までに解除	1 講時から実施
10時までに解除	3 講時から実施
10時を過ぎて解除	全講時休講

（注）「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」は、原則として、休講の対象にはなりません。

ただし、特例的に大学が休講にする場合があります。その場合は、本学 HP および「先端なび」に掲示を行います。

※ 授業開始後に対象警報が発令された場合は、原則として、以降の授業は休講となります。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の公共交通機関が遅延した場合に準じて対応してください。

(2) 公共交通機関が遅延した場合

当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記のいずれかの対応をとってください。

① 授業（授業内試験を含む）に出席できなかった場合

当日中に科目担当教員に直接その旨を伝えて指示に従うこと。

② 期末定期試験に出席できなかった場合

追試験受験が認められるので、当該科目の試験終了後、必ず2日以内（試験当日・土日祝を含まない）に教務センターへ申し出て、追試験の申請手続きを行うこと。

なお、遅延状態によっては、授業または試験開始時刻を変更する場合もあるので、掲示に注意してください。

※ 追試験の申請手続きには運休証明または遅延証明が必要です。

休講等の確認は「先端なび」をご利用ください。電話による問い合わせは避けてください。

5. 京都亀岡キャンパス開講科目 （※バイオ環境学部、健康スポーツ学科は除く）

授業科目一覧で【京都亀岡キャンパス】と記載のある科目は、京都亀岡キャンパスで開講されます。

履修の際は、移動時間を十分考慮してください。キャンパス間移動は、無料キャンパス間バスもしくは公共交通機関を利用してください。

Ⅲ. 履修登録

1. 履修登録

履修登録とは、そのセメスターに受講しようとする科目の授業を受けるための手続きです。正しく履修登録されていない科目は、毎回授業に出席したとしても、単位を修得することができません。

春学期開講科目と通年開講科目は春学期に、秋学期開講科目は秋学期に、それぞれ「先端なび」から履修登録します。登録後の科目は「先端なび」で確認してください。

2. 履修登録の要件

履修登録が有効に行われるためには、次に定めるすべての要件を充たしていなければなりません。

履修登録は、すべて自己責任において行ってください。

- 必修科目を修得していない時は、必修科目を他の科目に優先して必ず登録してください。
- 科目・クラスによる履修制限を守ってください。
- 重複登録の禁止（同一講義時間に2科目以上を登録してはいけません。）
- 登録変更の禁止（登録した科目を変更、追加することはできません。）
- 単位修得済み科目の再受講の禁止（単位を修得した科目をもう一度受講することはできません。）
- 各学科で定められている履修登録制限単位数を超えてはいけません。

3. 履修登録制限（CAP制）

CAP制とは、学修の質および学修時間の確保のため、1セメスター（または年間）で履修できる授業科目の単位数に上限を設定する制度です。各学科で定められた制限単位数を超過して登録することはできません。

- 「インターンシップ実習」「海外研修」「サービス・ラーニング」の単位は履修登録制限単位数に含まれません。

4. 履修登録の形態

（1）必修科目

受講があらかじめ決められていて、単位を修得しなければならない科目。

必修科目の単位が修得できなかった場合、当該科目を翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

（2）自動登録科目

受講があらかじめ決められている科目。

（3）事前登録科目

定員のある科目。定員以上の受講希望者があった場合、選抜条件にしたがって受講者を決定します。

事前登録の手続きを経て受講が許可されれば、必ず受講しなければなりません。（受講辞退不可）

（4）その他の科目

自分で登録する科目。各学部（科）のオリエンテーションで確認してください。

5. 履修登録科目の取り消し

選択科目に限って、春学期は4月最終授業日まで、秋学期は10月最終授業日まで履修登録を取り消すことができます。

なお、履修登録を取り消した代わりに別の科目を登録することは認めませんので、卒業に必要な単位数等を十分考慮して、履修の取り消しを行ってください。

履修登録取り消しの手続きは、教務センターにて所定の「履修取消願」を上記の期間内に提出してください。

6. 科目ナンバリング

第2部 各学科の「履修登録」に掲載している授業科目一覧には「科目ナンバー」を明示しています。履修科目を選択する際に参照してください。

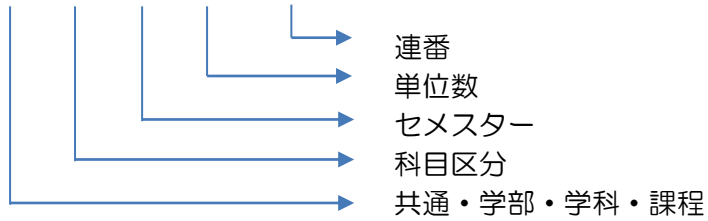
(1) 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、本学で開講しているすべての授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

(2) 科目ナンバリングの構造

科目ナンバーは、以下の6桁の英数字から構成されています。

AB1201



Ⅳ. 出席管理システムについて

本学では、出席管理システムを導入しています。毎講時、授業が始まる際にタッチパネル式の出席管理システム端末に学生証をかざすと、自動的に出席状況が登録されます。

必ず学生証を携帯し、各授業の際にかざしてください。この操作をしないと、たとえ出席していても欠席の扱いとなってしまいます。

学生証の貸し借り（出席の不正行為）を発見した場合は、双方に厳重注意をします。

1. 出席・遅刻・欠席の扱いについて

授業開始の8分前、出席データの読み取りが可能となります。

授業開始の5分後、遅刻の扱いへ切り替わります。

授業開始から20分以降は、欠席扱いになります。

2. 出欠・遅刻情報の扱いについて

学生のみなさんの出席・遅刻の情報は教務システムで一元管理されます。科目担当教員はこのシステムに登録された出欠情報に基づいて出欠等の確認を行うことを原則としますが、担当教員によっては授業終了時の小テスト提出など他の要件が考慮される場合もあります。

V. 試験

1. 試験の種類

試験を実施時期によって分類すると次の3種類になります。

① 定期試験

各学期末や一定の期間に、授業時間割とは別に編成される試験時間割により実施される試験です。

② 追試験

病気、その他のやむを得ない理由により定期試験を欠席し、所定の手続きにより許可された場合のみ受験できます。願い出により実施される試験です（7. 追試験参照）。

③ 再試験

試験（追試験含む）の結果「不合格」と判定された場合、特定の科目（再試験対象科目）については、再試験を受けることができます。ただし再試験に対する追試験は実施しません。再試験で合格となった場合の成績評価はすべて60点（「C」）となります。また再試験で「不合格」となった科目は、以後のセメスターに授業を再履修することになります。

上記①～③のほか、科目担当教員の判断で、適宜授業内に試験が実施される場合があります。

2. 試験の方法

試験の方法には、主として次の3種類があります。なお、複数の方法を組み合わせて実施される場合もあります。

① 筆記試験

② レポート試験

③ 実技試験

3. 定期試験の時間

(1) 試験時間帯

京都太秦キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
8:50～9:50	10:30～11:30	12:40～13:40	14:20～15:20	16:00～17:00

京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:30～10:30	11:10～12:10	13:20～14:20	15:00～16:00	16:40～17:40

(2) 試験時間割

定期試験の時間割は、原則として試験開始の2週間前に発表します。

4. 受験資格

次の要件をすべて満たしていないと受験資格はありません。

① その科目が正しく履修登録されていること。

② 定められた学費を納入していること。

③ 科目担当教員の求める諸条件を満たしていること。

④ その科目の出席回数が原則として授業実施回数の3分の2以上であること。

（科目によっては、より厳しい条件が課せられる場合があります。シラバスや授業中の説明を必ず確認してください。）

5. 試験に関する注意事項

[筆記試験]

① 試験会場には学生証を必ず持参し、「顔写真」がよく見えるように机の上に提示すること。

② 学生証を忘れた場合は、教務センターで「受験許可証」の交付を受けること。

③ 指示された試験会場で受験すること。

④ 試験開始時刻から20分以上遅刻した場合は受験できません。

⑤ 試験開始後30分経過するまでは退室できません。

- ⑥ 答案には、「学籍番号」「氏名」を明記し、退室時必ず提出すること。
- ⑦ 持込許可品以外の物品は、カバン等に入れて指示された場所に置くこと。
- ⑧ 携帯電話等は、試験中は必ず電源を切って、カバン等の中に入れること。
- ⑨ 試験会場では、試験監督者の指示・注意に従うこと。
- ⑩ 座席が指定されている場合は、指定された座席で受験すること。
- ⑪ 不正と疑われる行為が見受けられた場合、注意書を提示し注意を与えます。
その後も注意を聞き入れなかった場合、もしくは不正行為を発見した場合は、不正行為通告書を提示し、受験の中止を申し渡し、その場での待機を命じます。
- ⑫ 次の場合、その答案は無効として扱われます。
 - ・ 無記名の場合（学籍番号・氏名、どちらか一方が記入されていない場合でも無効になります。）
 - ・ 学籍番号・氏名が書き直されている場合
 - ・ 指定された場所に提出しない場合
 - ・ 受験態度が不良な場合
 - ・ 受験資格の各要件を充たさずに受験した場合

[レポート試験]

(1) レポートの課題・提出期限等の受講者への連絡方法

「先端なび」に掲示しますが、授業中に口頭連絡だけで提示される場合もあります。

(2) 提出方法

レポートには指定表紙（「先端なび」よりダウンロード）をホッチキスで綴じ、完成させた状態で本人が教務センター業務取扱時間内に提出してください（シャープペンシルや鉛筆書き不可）。

別途指示がある場合は、この限りではありません。

(3) 提出時の注意

- ① 提出期限が過ぎたレポートは受け付けません。
- ② 提出後のレポート差替え、訂正、返却は受け付けません。
- ③ レポート提出控えは、各セメスターの成績が出るまで必ず各自で保管してください。
- ④ 郵送による提出は無効とし処分します。
- ⑤ 講義内提出の指示があったレポートは教務センターでは一切受け付けません。
- ⑥ 教員の電話番号・住所等に関する問い合わせへの対応および取り次ぎは行いません。
- ⑦ 受け付けは教務センター業務取扱時間内に限ります。

《京都太秦キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

《京都亀岡キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

《授業中に提出するように指示された場合》

授業に遅刻・欠席して提出できなくても、教務センターでは一切受け付けません。

教員の電話番号・住所等は公開しないことになっていますので、連絡先も教えられません。

このようなことにならないためにも、提出期限に余裕を持って提出（持参）してください。

《担当教員から郵送（メール等で提出）するように指示された場合》

その指示に従ってください。教務センターに送付された場合は処分します。

6. 不正行為

[不正行為が行われた際]

定期試験中に学生が不正行為通告書を提示された場合は、試験終了後に事情聴取を受けることになります。その後、調査委員会が不正行為を認定した場合は、当該学生は受験資格を喪失し、自宅待機を命じられます。

[不正行為に対する処分]

学生が不正行為を行った場合は、大学による厳正な処分を受けます。成績評価については、不正行為を行った科目だけでなく、そのセメスターに履修したすべての科目が「不合格（F）」とされ、単位が認定されません（ただし、学部学科が指定した学外実習科目等は除く）。さらに、懲戒処分として、本学学生の懲戒に関する規程に基づいて、停学などの処分を科される場合があります。

次の行為が、不正行為にあたります。

- ① 代理人による受験および、受験を他人に依頼した場合
- ② 持込許可品以外の物品を持ち込み、またそれらを参照した場合
- ③ 筆記用具や持込許可品などを貸借した場合（貸した側、借りた側双方が処分されます。）
- ④ 机等に不正な書き込みをして受験した場合
- ⑤ 解答用紙の交換、筆写を行った場合
- ⑥ 口頭等により不正な連絡を行った場合
- ⑦ 解答用紙を持ち帰った場合
- ⑧ 監督者の指示に従わない場合

(注)「大学コンソーシアム京都」開設科目を受講している場合

他大学・短期大学等での受験に際しても、不正行為があった場合は全受験科目（本学・コンソーシアム科目）すべてを非受験扱いとし、所属学部の教授会において審議の上、厳重な処分を受けることになります。

7. 追試験

(1) 受験資格

追試験を申請できるのは、定期試験を次の事由により受験できなかった場合で、かつ証明書が入手できる場合に限られます。内容により別途証明書の提出を求める場合があります。

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から 5 日、解熱から 2 日経過していることが必要
2	公共交通機関の連休・遅延	連休・遅延証明書	
3	2 親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、会葬礼状など	慶事は 1 日（当日）
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での交通事故・故障・交通渋滞による遅延は含まない。
5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	1 以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

(2) 申請手続き

当該科目の試験終了後必ず2日以内（試験当日・土日祝を含まない）に、教務センターに申し出をし、速やかに追試験申請書に所定の証明書を添えて、教務センター窓口へ提出してください。

※ 指定された追試験日時に受験できなかった場合は、受験資格を失います。

8. 再試験

(1) 受験資格

再試験実施科目の科目担当教員が認めた場合に受験できます。

(2) 申請手続き

再試験の受験対象者へは、「先端なび」を通じて教務センターより連絡します。再試験の受験を希望する場合は、所定の期日までに以下の手順により申請してください。

- ① 証明書発行機を利用して、再試験受験料（1科目につき3,000円）を納入する。
- ② 証明書発行機から発行された「再試験申込書」と、窓口にて記入した「再試験科目申請書」を教務センターに提出する。
- ③ 「再試験受験票」を受け取り、試験日に持参する。

※ 指定された再試験日時に受験しない場合は、当該科目は「不合格（F）」となります。

VI. 単位認定と成績

1. 単位認定（単位の修得）

次の前提条件を満たす必要があります。

- ① 単位認定を受けようとする科目が正しく履修登録されていること。
- ② 単位認定に相応しい時間数の学修をしていること。

原則として、授業回数の3分の2以上を出席しなければ、単位の認定が行われません。その他の条件はシラバスや授業内で確認してください（科目によっては、より厳しい条件を課すものがあります）。

- ③ 担当教員の評価が合格点に達していること。
- ④ 担当教員の指示を充たしていること。

2. 成績

成績評価は100点満点法により60点以上が合格、59点以下が不合格です。

	評価		成績表への記載	成績証明書への記載
	記号	素点		
合格	S	100~90	記号表記と 素点表記	記号表記
	A	89~80		
	B	79~70		
	C	69~60		
	N	N	記号表記	
不合格	F	59~0	記号表記と素点表記	表記なし

※ 記号「N」は「認定」を表します。単位互換等で認定された科目に「N」と記載されます。

3. 成績発表

翌 Semester 開始前のオリエンテーション期間中、または進級判定時に成績を発表します。

4. 成績表記調査

シラバスに記載された評価基準、および授業中での評価基準の説明を十分に考慮した上で、明らかに自分の成績が誤りであると考えられ、それを具体的に説明できる場合、成績表記調査を申し出ることができます。

申請方法：指定された期間内に「成績表記調査申請書」を教務センターに提出してください。申請期間は成績発表時にお知らせします。

受付：「成績表記調査申請書」の記載内容を確認して、明らかに成績表記が誤りであると思われる場合は、申請書を受け付けます。

回答：文書により回答します。

注意：成績表記が誤りであるケースは極めて少なく、学生本人が評価方法や授業中の説明を理解していないために、成績表記が誤りであると思い込んでいるケースが大半です。事前に十分に検討してください。

5. 進級要件

上級学年に進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たさなければなりません。

経済学科、経営学科、心理学科、歴史文化学科、バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、食農学科、健康スポーツ学科

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
卒業要件としての修得単位数 ※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上 (バイオ環境学部は 100 単位以上)
単位修得が必要な 大学共通 コア科目	スタートアップゼミ I	スタートアップゼミ II 日本語リテラシー I・II 数的処理 I・II 情報リテラシー 英語 I、英会話 I キャリアデザイン I・II SLS I・II (バイオ環境学部 は SLS I-B、II)	英語 II・III 英会話 II・III SLS III・IV (バイオ環境学部 は SLS IV 不要)
単位修得が必要な 専門科目		経済学科：ミクロ経済入門、 マクロ経済入門 経営学科：会計学入門、経営 戦略論入門 心理学科： 社会・産業基礎演習、心理 演習、および心理学実験の 内、2 科目以上の単位を修 得していること。	
在学期間	1 年次に 1 年間在学している こと。	2 年次進級後に 1 年間在学 していること。	3 年次進級後に 1 年間在学し ていること。
留年期間・ 学費納入	留年期間は最低半年間とし、 入学年次生の 1 年生の該当学 費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、 入学年次生の 2 年生の該当学 費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、 入学年次生の 3 年生の該当学 費を納入する。

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

看護学科、言語聴覚学科

	2 年次終了時	3 年次終了時
卒業要件としての修得単位数 ※	基礎分野における卒業要件 (22 単位以上の修得)	—
修得科目	2 年次終了時までに関講した必修科目すべて	3 年次終了時までに関講した必修科目すべて

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

機械電気システム工学科

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
卒業要件としての修得単位数 ※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上
必修科目 (共通)		英語科目より 必修 10 単位を含む 18 単位以上	
必修科目 (専門)	物理工学 I 物理工学 I 演習 微分積分と線形代数 I 微分積分と線形代数 I 演習		プレキャップストーンプロジェクト I プレキャップストーンプロジェクト II
在学期間	1 年次に 1 年間在学していること。	2 年次進級後に 1 年間在学していること。	3 年次進級後に 1 年間在学していること。
留年期間 ・学費納入	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 1 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 2 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 3 年生の該当学費を納入する。

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

Ⅶ. GPA について

本学では、GPA (Grade Point Average) を導入しています。GPA とは大学の成績評価の方法の一つで、学力を測る指標となっています。

1. 本学の GPA 計算の方法と対象科目

S (90~100 点) =4 ポイント、A (80~89 点) =3 ポイント、B (70~79 点) =2 ポイント、C (60~69 点) =1 ポイント、F (59 点以下) =0 ポイントとして、それに各単位数を掛けて加えた合計点を、履修登録科目の総単位数で割って計算します。下の計算式で GPA は求められます。

(計算式)

$$\text{GPA} = \frac{(4 \text{ ポイント} \times \text{Sの科目の単位数合計}) + (3 \text{ ポイント} \times \text{Aの科目の単位数合計}) + (2 \text{ ポイント} \times \text{Bの科目の単位数合計}) + (1 \text{ ポイント} \times \text{Cの科目の単位数合計}) + (0 \text{ ポイント} \times \text{Fの科目の単位数合計})}{\text{総単位数 (分子となる科目の単位数の合計)}}$$

GPA 計算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目のうち卒業要件の対象となる科目とします。ただし、大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した認定科目など（評価が「N」と表される科目）は除きます。

本学では、みなさんに発表する成績には不合格・履修放棄科目も含んだすべての科目が表示され、GPA の計算に算入されることとなります。つまり、修得した単位数や S・A・B・C の数だけで評価するのではなく、大学の教育課程において、全ての履修登録科目にいかに取り組んだかが数値によって表現されます。

2. GPA 値の確認方法

入学後に履修登録したすべての科目の通算 GPA 値が成績に表示されます。

3. GPA 値の学内利用

GPA 値は、学内における奨学金審査等で用いられています。成績基準として GPA 値が各種奨学金やその他の申請等の条件となる場合には、別途募集要項等に記載します。

Ⅷ. 学修ポートフォリオについて

本学では、学生のみなさん一人ひとりが自らの学びの成果（学修成果）を振り返るツールとして、「先端なび」の中に学修ポートフォリオを設定しています（2020 年秋学期導入予定）。

学修ポートフォリオを通じて、定期的に自身の学びを振り返ることで、学修の到達度を振り返り、また今後取り組むべき課題を発見することができます。大学の学びでは、ただ単に授業を受講するに留まらず、4 年間の学びを自らで開拓し深めていくことが重要になります。こういったツールも用いながら、皆さん自身の学びをより深化していくことを期待しています。

Ⅸ. 卒業と学位

卒業は、大学が定める教育課程の修了であり、各学科の定める「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に沿って、学位が授与されます。

1. 卒業および学位

卒業するためには、大学が定める教育課程に従って学修し、次の卒業要件をすべて満たすことが必要です。

(1) 所定在学年数

4 年以上在学し、各学年 1 年以上在学していること。休学期間は在学年数に含みません。

(2) 所定単位の修得

卒業必要単位数・必修条件等を満たしていること。

(3) 卒業判定

所定在学年数の要件を満たすことになる在学学生を対象に卒業判定を行います。この卒業判定に合格した場合に、卒業が認定されます。

2. 卒業見込

卒業見込証明書の発行基準は以下のとおりです。卒業見込は、卒業を保証するものではありません。

(1) 第7セメスター開始時

卒業に必要な単位数（要卒単位数）から第7セメスターと第8セメスターで登録できる単位数を差し引いた単位を修得していること。

(2) 第8セメスター開始時

卒業に必要な単位数（要卒単位数）から第8セメスターで登録できる単位数を差し引いた単位を修得していること。

第7セメスターで卒業見込証明書を発行されていた場合でも、成績次第で第8セメスターでは発行されない場合もあり得ます。

3. 学位

学部名	学科名	学位
経済経営学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
人文学部	心理学科	学士（人文）
	歴史文化学科	学士（人文）
健康医療学部	看護学科	学士（看護学）
	言語聴覚学科	学士（言語聴覚学）
	健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
バイオ環境学部	バイオサイエンス学科	学士（バイオ環境）
	バイオ環境デザイン学科	学士（バイオ環境）
	食農学科	学士（バイオ環境）
工学部	機械電気システム工学科	学士（工学）

X. 学籍

学籍とは、本学の学生としての身分を意味する用語です。学籍は入学によって発生し、在籍、在学、休学、留学、卒業、除籍、退学などがあります。

1. 学籍の喪失

卒業以外の事由で学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合として、退学と除籍の2種類があります。さらに、退学はその内容により、自主退学と懲戒退学に区分されます。

(1) 退学

① 自主退学

自主退学は、学生自身の意思により学籍を喪失することです。退学するときは所定の手続きが必要になります。

- ・ 原則として、担任・副担任と面談する必要があります。
- ・ 「退学願」に事由を明記して、保証人との連署により学生証を添えて願い出てください。

② 懲戒退学

懲戒すべき事由に該当する学生に対して、本学における修学に改善の見込みがなく、本学学生としての身分を剥奪することが教育上やむを得ないと認められる場合に行うことができます。

学生の懲戒に関する規則の第6条1項3号及び第7条を参照。

※ なお、退学にあたり、当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

(2) 除籍

学則に定める除籍事由は次のとおりです。

- ・ 定められた期間に所定の学費を納入しない場合
- ・ 修学年限が8年を超える場合
- ・ 休学期間の満了する2週間前までに、復学手続きがない場合
- ・ 正当な理由がなく、所定の手続きを怠り、修学意志がない場合
- ・ 死亡した場合

(3) 復籍

学費未納で除籍された場合に限り、除籍措置の日から1ヵ月以内であれば、願い出により復籍することができます。所定の学費を納入し、復籍願に保証人と連署の上、復籍料（10,000円）とともに願い出てください。

除籍措置の日から1ヵ月を超えてしまうと、再入学の手続きとなります。

2. 休学と復学

病気その他の事由により3ヵ月以上就学できない見込みの場合は、休学を願い出ることができます。

(1) 休学の願い出

「休学願」に事由を明記して、保証人との連署で願い出てください（病気等で休学される場合は診断書を添付）。

伝染病、その他の病気のために就学不相当と認められた場合には、学部長が休学を命ずることがあります。

(2) 休学期間

継続して2年を超えることはできません。ただし、留学生で母国の兵役により、休学期間が2年を超える場合は、引き続き1年以内に限り延長することができます。休学の期間は、通算して4年を超えることはできません。

(3) 休学中の学費

休学中は学費の納付を免除します。ただし、休学期間中は春・秋学期ごとに在籍料（10,000円）を納付しなければなりません。なお、当該学期の学費を既に納入している場合、在籍料は免除されますが、学費の返還はできません。

(4) 復学の願い出

休学事由が消滅したときは、願い出により復学することができます。休学期間が満了する2週間前までに、「復学願」を保証人と連署で提出してください。病気等で休学されていた場合は、就学に支障のない旨の診断書を添付してください。

休学期間の満了する2週間前までに復学願が提出されない場合は除籍になります。除籍後、就学を希望する場合は再入学の手続きとなります。

3. 再入学

(1) 再入学を願い出ることができるのは、次の事由により学籍を喪失した場合に限ります。

- ① 退学により学籍を喪失した場合
- ② 復学手続きに間に合わなかった場合
- ③ 復籍手続きに間に合わなかった場合

(2) 再入学を願い出ることのできる期間

上記①～③の学籍喪失日(退学日・除籍日)より2ヵ年以内で、再入学しようとする各学期の1ヵ月前まで。

(3) 再入学金

再入学を希望する場合は、再入学金(130,000円)が必要です。

4. 転学部・転学科

転学部・転学科を希望する場合は、6月15日または1月末日までに現所属学部の教務センターに申請してください。

5. 留学

本学が認めた留学期間は、「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

学籍関係事項について(申し合せ)

休学、復学、退学、再入学、除籍、復籍、転・編入学、転学部、転学科については、京都先端科学大学学則第19条、第20条、第21条および第28条に定めるほか、この規定の定めるところによる。

<休学>

1. 病気その他の事由により3ヵ月を超えて就学できない者は、所定の様式により学部長に休学願いを提出し、許可を得て休学することができる。
2. 伝染病、その他の病気のため就学不相当と認められた者に対しては、学部長は休学を命ずることがある。
3. 休学の期間は継続2年を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合、引き続き1年以内に限り延長することができる。
4. 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
5. 休学期間の学費は、免除する。ただし、在籍料としてその年度の学期毎に10,000円を指定の日までに納付しなければならない。なお、その年度の学費納入者にあつては、在籍料は免除する。

<復学>

1. 休学者が復学しようとするときは、復学しようとする学期の2週間前までに所定の様式により復学願いを学部長に提出し、許可を得て復学することができる。
2. 復学を許可する時期は、春学期および秋学期の始めとする。ただし秋学期復学者の受講は、秋学期において開講する授業科目のみとする。
3. 休学者が休学期間の終わる2週間前までに復学手続きをしなかった場合は、その休学期間の末日をもって除籍する。

<退学>

1. 病気その他の事由により退学しようとする者は、所定の様式により退学願いに学生証を添えて学部長に提出し許可を受けなければならない。
2. 退学者の退学日付は、退学願いの日付とする。ただし上記の者が退学願いの日付までの学費を滞納している場合は、学費の納入されている期間の末日をもって退学の日付とする。

<再入学>

1. 再入学を願い出ることができる期間は、退学の日より2年以内とする。
2. 再入学を許可された者は、再入学金を指定の日までに納付しなければならない。
3. 再入学金は再入学した年度の入学金の2分の1とし、学費は再入学した学籍年度の額とする。
4. 再入学を許可する時期は、毎学期の始めとする。

<除籍>

次の場合は除籍とする。

1. 授業料その他の学費の滞納期間が1ヵ月を超える者。
2. 修学期間が8年を超える者。
3. 正当な理由がなく、所定の手続きを怠り、就学の意志のない者。
4. 死亡した者。

〈復籍〉

1. 授業料その他学費の未納によって除籍された者が、除籍処置の日から1ヵ月以内に保証人連署をもって学部長に復籍を願い出た場合にのみ、復籍を許可することがある。
2. 復籍手続をする場合は、復籍金10,000円と滞納の学費とを納付しなければならない。
3. 除籍処置の日から1ヵ月を超えた者、又は学費未納以外の理由によって除籍された者が、復籍を希望する場合は、再入学をするものとみなして取扱うものとする。

〈転学・編入学〉

1. 他の大学に転学を希望する場合は、退学願を提出し教授会の議を経てこれを許可することがある。

〈転学部・転学科〉

1. 転学部・転学科は、各学部・各学科に欠員が生じた場合に限り、選考の上、志願学部教授会の議を経てこれを許可することがある。
2. 転学部・転学科を希望する者は、所定の期日までに、志願学部長に願い出るものとする。
3. 転学部・転学科の併願及び再転学部・再転学科はこれを認めない。
4. 転学部・転学科を許可された者は、学期始めをもって転籍するものとする。
5. 転学部・転学科を許可された者は、所定の期日までに手数料及び学費等を納付しなければならない。手数料は10,000円とし、学費は新所属学部・学科の当該年次生と同額とする。
6. 転学部者・転学科者の既修得単位の認定については、各学部において定める。

京都先端科学大学学生留学内規 平成11年4月1日制定

- 第1条 京都先端科学大学学則（以下「学則」という。）第14条に基づく他の大学または短期大学への留学に関しては、学則に定めるもののほか、この内規による。
- 第2条 この内規にいう留学とは、他の大学または短期大学の特定の授業科目を履修するために現地で留まり、本学での履修は行わない場合をいう。
- 第3条 留学の対象となる大学等とは、国内においては留学（単位互換）に関して本学と協定を結んだ大学、外国においては留学に関して本学と協定または合意している大学等、あるいは学位授与権を有する大学等及びこれに相当すると学長が認めた教育機関をいう。
- 第4条 留学できる者は、本学に1年以上在学した者でなければならない。
- 第5条 留学する者の学籍上の取扱いは、留学とし、休学扱いしない。留学期間は在学期間に算入する。
- 第6条 留学期間は1年以内とする。
- 2 外国留学で特別な事情がある場合は、1年以内に限り留学の延長を許可することがある。
- 第7条 留学を希望する場合は、所定の留学願及び留学予定先の留学許可を証する書類の写し等必要書類を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 2 留学の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長がこれを行う。
- 第8条 外国留学で留学期間の延長を願い出る場合は、留学延長願を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 2 留学延長の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長がこれを行う。
- 第9条 留学を終了した者は、指定の留学終了届を、当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 第10条 留学期間中に修得した授業科目の単位を本学の卒業要件の単位として認定を受けようとする者は、留学先大学等の発行した成績証明書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
- 2 前項の単位の認定は、当該学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。この場合の認定し得る単位数は60単位を限度とする。
- 第11条 年度の途中から留学する者は、留学前に科目登録し受講している授業科目について、留学終了後に再度科目登録し、継続して履修することができる。ただし、開講している科目に限る。春学期開講科目または秋学期開講科目についても、年度当初または秋学期登録期間に科目登録し、履修することを認める。
- 第12条 留学中の学費の取扱いについては、本学学費規程によるものとする。
- 第13条 留学している者が当初の目的を達成することができず、学生の本分に反する行為があったと認められるとき、学長は、当該学部教授会の議を経て、留学の許可を取り消すことができる。
- 第14条 外国の語学専門学校のうち、学長が認めた学校における10週間以上の語学研修も留学の対象とする。
- 2 前項の留学を終えて、第10条に該当しない授業科目の履修を本学の科目の単位として認定を受けようとする者は、履修時間数及び修了証書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
- 第15条 この内規の改廃は、国際交流委員会、各学部教授会及び大学評議会の議を経るものとする。
- 附則省略

《外国人留学生の方へ》

- ① 外国人留学生は、下記の所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります（大学共通コア科目の日本語リテラシーⅠ・Ⅱおよび数的処理Ⅰ・Ⅱを履修する必要はありません）。
- ② 目的は外国人留学生の日本語技能を引き上げ、卒業論文の作成を支援することにあります。

※本プログラム科目の履修について不明な点がある場合は、教務センターに問い合わせてください。

☆外国人留学生対象日本語プログラム科目の概要、履修対象者、および履修要件

科目名	単位数	科目の概要	履修対象者および履修要件
日本語Ⅰ (必修)	2	やや高度な日本語読解・聴解技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	①外国人留学生全員 ②3年生進級時までに単位を修得してください。
日本語Ⅱ (必修)	2	やや高度な日本語文法・作文・会話・発表技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	同上
日本語作文演習 (必修)	2	日本語レポートを作成できる論理的な文章の書き方を修得します。	①「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」単位修得者 ②4年生進級時までに単位を修得してください。

第2部 教育課程

経済経営学部 教育目的と3つのポリシー

<経済経営学部の教育目的>

経済学・経営学を中心に法学分野の科目も配した実学重視の教育課程を通じて、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と高い専門性を兼ね備えた人材の育成を目的とする。

<入学受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学部の教育目的に即した人材を育成するために、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する基礎的な学力とそれを活用する力、他者とのコミュニケーション能力を備える人を求めます。

1. 知識・技能

・経済学と経営学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。

2. 思考力・判断力・表現力

・経済や社会について、また企業やショップの経営について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・経済学や経営学に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。

・知識の修得と実践の活用のために、多様な人々と協働して取り組める。

・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、学部共通科目および学科専門科目を配置します。

1.2 学部共通科目では、経済学・経営学を中心に、法学を含めた広く社会科学の学修に共通して必要とされる基礎的な知識と技能を修得することを目的とし、それに必要な科目を配置します。

1.3 学科専門科目は、各々の学科の学修を活かした進路に即して配置され、各々の学科の専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

2.1 (学修方法) 学部の教育課程では、経済学・経営学の理論を段階的かつ体系的に学修するとともに、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

2.2.1 (学修過程) 学部共通科目では、各学科の専門分野の基礎となる、初歩的・入門的な科目を学修します。

2.2.2 1年次には、学部共通の入門科目により経済学・経営学の学修に必要な基礎知識を得ます。

2.2.3 2年次には、学部共通のキャリア科目を学修することで、行動力や問題解決力を養う学修を行います。

2.2.4 3年次からは、少人数のゼミナールにおいて各々の関心に応じた専門分野における学修を行います。

2.2.5 4年次では、各々の設定したテーマについてゼミナールにおいて指導を受けながら卒業研究を行い、課題発見力・解決力を養う学修を行います。

2.3 (学修過程) ビジネスパーソンとして社会の第一線で活躍できる能力を養うべく両学科共通のコースと学科独自のコースで段階的に学修を進め、専門的知見に基づく主体性および問題解決力を育みながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、経済経営学部のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスを示し、到達目標の達成度を評価します。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解
 - 1.1 経済学・経営学とその関連分野の学修を通じて、社会をとりまく諸現象に関する歴史的経緯や法則性を理解し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 技能
 - 2.1 社会人として必要な幅広い教養を有し、自律した行動ができる。
 - 2.2 専門教育とキャリア教育から得た知識・意識を通じて、自らの社会人としてのキャリアデザインを長期的視野に立って描くことができる。
3. 思考・判断・表現
 - 3.1 経済学・経営学の専門分野の学修を通じて得た知識をもとに、経済経営分野における諸課題について複眼的な視野から分析することができる。
 - 3.2 自ら設定した経済経営分野における主題について、適切な手法を用いて結論を導き、それを論理的かつ客観的に説明することができる。
4. 関心・意欲・態度
 - 4.1 経済学・経営学分野の専門的知見に基づいて、変容するグローバル社会の諸問題の解決に向け、他者と協調して行動をとることができる。
 - 4.2 社会科学の幅広い知見に基づいて、よりよい社会の構築に向けて的確な判断をでき、それに積極的に参画することができる。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。
2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。
3. 教育課程レベル (学部・学科)

卒業論文、単位取得状況、GPA、資格の取得状況などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部テスト ・学生満足度調査 ・ポートフォリオ (マイステップ) ・課外活動の状況 ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・資格・免許取得率
教育課程 (経済経営学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・取得単位数 ・GPA ・外部テスト ・インターンシップ成果報告会 ・学外での研究発表会 ・ビジネス・プランニング・コンテスト ・成果物の展示 ・学生論集への掲載 ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・卒業論文 ・就職率 ・資格取得者数
科目	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育 ・英語プレースメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・成果報告会 ・外部テスト ・授業評価アンケート ・企業アンケート 	

第1章 経済学科

教育目的と3つのポリシー

＜経済学科の教育目的＞

経済学を中心に経営学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と経済学の体系的な学修を通じて修得した広い視野をもって社会で活躍できる人材の育成を教育の目的とする。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学科の教育目的に即した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目についての基礎的な知識や技能を有し、自分の考えを伝えられる表現力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲と姿勢、コミュニケーションを効果的に図ることによって相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史、数学などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・経済や社会について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・経済学に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識の修得と活用のために、多様な人々と協働して取り組める。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、基礎科目と展開科目を配置します。

1.2 基礎科目では、経済学の学修に必要な基礎的な知識と技能を修得することを目的とし、それに必要な経済学分野の基幹科目および一般的な科目を配置します。

1.3 展開科目は、基礎科目で得た知識と技能を基にしたより専門性の高い科目を配置し、経済学の知識を駆使した高度な問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

2.1（学修方法） 学科の教育課程では、少人数指導の下で、経済学分野における各々の学問的関心に応じた理論体系の学修、およびその実社会との関連の考察を行い、それを成果物にまとめます。

2.2.1（学修過程） 学科専門科目では、基礎科目から展開科目へと学修を進めることで、初歩から段階的かつ体系的に経済学を学びます。

2.2.2 1年次には、学科専門の基礎科目の一部を学修することで、経済学の基礎知識を得るとともに、経済学の目的と意義を理解します。

2.2.3 2年次には、学科専門の基礎科目と並んで展開科目の学修を開始することで、より高度な経済学の理論に基づく問題解決力を養う学修を行います。

2.2.4 3年次からは、少人数のゼミナールにおいて各々の関心に応じて経済学に関する専門分野における学修を行います。

2.2.5 4年次では、各々の設定した経済分野に関するテーマについてゼミナールにおいて指導を受けながら卒業研究を行い、課題発見力・解決力を養う学修を行います。

2.3（学修過程） ビジネスパーソンとして社会の第一線で活躍できる能力を養うべく両学科共通のコースと学科独自のコースで段階的に学修を進め、経済学の専門的知見に基づく主体性および問題解決力を育みながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、経済学科のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。

3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスに示され、到達目標の達成度を評価します。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解
 - 1.1 経済学とその関連分野の学修を通じて、社会をとりまく諸現象に関する歴史的経緯や法則性を理解し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 技能
 - 2.1 社会人として必要な幅広い教養と経済学の専門知識を有し、それを活用できる。
 - 2.2 経済学の専門教育とキャリア教育から得た知識・意識を通じて、自らの社会人としてのキャリアデザインを長期的視野に立って描くことができる。
3. 思考・判断・表現
 - 3.1 経済学の専門分野の学修を通じて得た知識をもとに、現代の経済社会を取り巻く諸課題について、豊かな想像力をもって複眼的な視野から分析することができる。
 - 3.2 自ら設定した経済分野における主題について、経済学で用いられる適切な手法を用いて結論を導き、それを論理的かつ客観的に説明することができる。
4. 関心・意欲・態度
 - 4.1 経済学分野の専門的知見に基づいて、グローバル社会が直面する経済問題の解決に向け、他者と協調して行動をとることができる。
 - 4.2 経済学の専門教育から得られた知見に基づいて、よりよい社会の構築に向けて的確な判断をでき、それに積極的に参画することができる。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。
2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。
3. 教育課程レベル (学部・学科)

卒業論文、単位取得状況、GPA、資格の取得状況などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部テスト ・学生満足度調査 ・ポートフォリオ (マイステップ) ・課外活動の状況 ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・資格・免許取得率
教育課程 (経済経営学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・取得単位数 ・GPA ・外部テスト ・インターンシップ成果報告会 ・学外での研究発表会 ・ビジネス・プランニング・コンテスト ・成果物の展示 ・学生論集への掲載 ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・卒業論文 ・就職率 ・資格取得者数
科目	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育 ・英語プレイズメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・成果報告会 ・外部テスト ・授業評価アンケート ・企業アンケート 	

カリキュラム

1. 卒業に必要な単位数

科目分類		必修	選択必修	選択	任意	
大学共通 コア科目	未来展望科目			4	13	
	公民教養科目					
	アカデミック・ スキル科目	日本語リテラシーⅠ・Ⅱ	2			
		数的処理Ⅰ・Ⅱ	2			
		情報リテラシー	1			
	英語科目	英語Ⅰ～Ⅴ、英会話Ⅰ～Ⅴ	16			
	第二外国語科目					
	日本語科目					
	スタートアップ 科目	スタートアップゼミⅠ・Ⅱ	4			
キャリア教育科 目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ	4				
スポーツ・ライフ スキル科目	SLSⅠ～Ⅳ	4				
大学共通小計			33	4	13	50
学部共通 科目	入門科目			8		
	キャリア科目					
学科専門 科目	基礎科目	ミクロ経済入門、マクロ経済 入門、財政入門、金融入門、 国際経済入門	10		44	12
	展開科目					
	演習科目					
学部学科小計			10	8	44	12
総計			43	12	57	124

- ・第8セメスター以降に「卒業論文」を提出し、合格することを卒業要件とする。
- ・別途、進級要件を設ける。
- ・合計124単位（必修43単位、必修以外81単位）以上を修得すること。内訳は以下の通り。
 大学共通コア科目から50単位以上を修得。その内、未来展望科目から4単位以上、アカデミック・スキル科目から必修5単位、英語科目から必修16単位、スタートアップ科目から必修4単位、キャリア教育科目から必修4単位、スポーツ・ライフスキル科目から必修4単位を含める。
 学部共通科目と学科専門科目から74単位以上を修得。その内、学部共通科目の入門科目とキャリア科目から8単位以上、学科専門科目の基礎科目から必修10単位、並びに学部共通科目と学科専門科目から44単位以上を要修得。なお、他学科・他学部などで修得した単位は12単位を上限に含むことができる。
 大学共通コア科目から修得した単位数が50単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。
 また、任意科目が12単位を超過した場合もその超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。

2. 進級要件

上級学年に進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たさなければなりません。

	1年次終了時	2年次終了時	3年次終了時
卒業要件としての修得単位数※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上
単位修得が必要な 大学共通 コア科目	スタートアップゼミ I	スタートアップゼミ II 日本語リテラシー I・II 数的処理 I・II 情報リテラシー 英語 I、英会話 I キャリアデザイン I・II SLS I・II *外国人留学生は、日本語リテラシー I・II と 数的処理 I・II の代替として、日本語 I・II の単位を修得していること。	英語 II・III 英会話 II・III SLS III・IV *外国人留学生は、さらに日本語作文演習の単位を修得していること。
単位修得が必要な 専門科目		ミクロ経済入門 マクロ経済入門	
在学期間	1年次を1年間在学していること。	2年次進級後に1年間在学していること。	3年次進級後に1年間在学していること。
留年期間・ 学費納入	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の1年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の2年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の3年生の該当学費を納入する。

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

大学共通コア科目から修得した単位数が50単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含まれません。

また、任意科目が12単位を超過した場合もその超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含まれません。

3. 履修登録制限単位数

すべてのセメスターにおいて、履修登録できる単位数は24単位（年間48単位）です。この制限単位数には、各セメスターの自動登録科目（次の項目参照）の単位が含まれています。通年科目については、原則、その登録期間にわたるセメスター数で割った単位数を履修登録しているとして処理されます。例えば、「英語 I ④」は、1セメスターで2単位分、2セメスターで2単位分を履修登録しているとみなします。

1年生		2年生		3年生		4年生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位
計48単位		計48単位		計48単位		計48単位	

- 各セメスターの自動登録科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
- 他学部受講科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
- 大学コンソーシアム京都の提供する科目の単位は、登録制限単位に含まれない。年間6単位を上限とする。
- 「インターンシップ実習 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB」、「海外研修 IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB」、「サービス・ラーニング IA・IB・IIA・IIB・IIIA・IIIB」の単位は、登録制限単位に含まれない。

4. 自動登録科目（所定のセメスターで履修が義務づけられている科目。★の科目は必修科目。丸数字は単位数）

年次	セメ	大学共通コア科目	学部共通科目	学科専門科目	自動登録単位数	自動登録以外の単位数
1	通年	英語Ⅰ④★ 英会話Ⅰ②★			6	
	1	日本語リテラシーⅠ①★ スタートアップゼミⅠ②★ 数的処理Ⅰ①★ 情報リテラシー①★ キャリアデザインⅠ②★ SLSⅠ①★	経済学入門② 日本経済入門②		12	9
	2	日本語リテラシーⅡ①★ 数的処理Ⅱ①★ スタートアップゼミⅡ②★ キャリアデザインⅡ②★ SLSⅡ①★	ビジネスデータの 見方②	マクロ経済入門②★ ミクロ経済入門②★	13	8
2	3	英語Ⅱ②★ 英会話Ⅱ①★ アカデミック・ライティングⅠ① 数的処理Ⅲ① SLSⅢ①★		国際経済入門②★ 経済政策入門② 財政入門②★ 金融入門②★	14	10
	4	英語Ⅲ②★ 英会話Ⅲ①★ アカデミック・ライティングⅡ① 数的処理Ⅳ① SLSⅣ①★		白書で学ぶ現代日本②	8	16
3	5	英語Ⅳ①★ 英会話Ⅳ①★ キャリア形成実践演習Ⅰ①		専門ゼミⅠ②	5	19
	6	英語Ⅴ①★ 英会話Ⅴ①★ キャリア形成実践演習Ⅱ①		専門ゼミⅡ②	5	19
4	7			専門ゼミⅢ②	2	22
	8			専門ゼミⅣ②	2	22

必修科目(★)を上記セメスターで単位修得できなかった場合、原則翌セメスター以降に履修しなければなりません。2年次3セメスターの「国際経済入門」「経済政策入門」「財政入門」「金融入門」は、2セメスターで「マクロ経済入門」「ミクロ経済入門」の両方の単位を修得できなかった場合、指導教員の許可のもと、2科目まで履修を先送りすることができます。

外国人留学生については、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語作文演習も自動登録されます。これらを単位修得できなければ次セメスターにおいても自動登録されます。後述の《外国人留学生の方へ》も参照してください。

5. カリキュラムの構成

(1) 1年次における履修

大学での学修に必要な基礎能力や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目・公民教養科目・アカデミック・スキル科目）
- 情報機器・情報環境（情報リテラシー、情報プレゼンテーション）
- 外国語能力（英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語）
- 基礎的就業力育成（キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ）
- 経済学系入門科目（日本経済入門、経済学入門、ビジネスデータの見方、マクロ経済入門、ミクロ経済入門など）

(2) 2年次における履修

経済学に関する基礎学修や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目・公民教養科目・アカデミック・スキル科目）
- 外国語能力（英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語）
- 経済学系基礎科目（国際経済入門、経済政策入門、財政入門、金融入門、経済史入門、社会政策入門）
- 経済学系展開科目（経済学系入門・基礎科目で学んだ科目を礎にした学修）
- キャリア観育成（実践プロジェクト）

(3) 3年次以降における履修

経済学系展開学修および研究活動

- コースを意識した経済学系展開科目
- キャリア実践学修
- AIP、GIP（後述参照）による理論と実践の融合

6. コース

系統的な学修を支援し卒業後の進路決定に役立つように、コースが設けられています。後述の各コースの履修モデルも参考にしてください。

コース	コースの特徴
ビジネスリーダーコース	<p>グローバル化と情報化が急速に進む現代社会において、企業活動を取りまく環境は高度に複雑化しています。こうした状況下で、企業をはじめとする組織において指導的役割を担うには、経済社会の動向を的確に分析し判断する能力が必要とされます。</p> <p>本コースでは、経済学の分析手法を修得し、国内外の経済実態を正しく理解する能力を持つとともに、幅広い教養に基づくすぐれた問題発見・解決能力を備えたビジネスパーソンとなれる人材を育成します。</p>
地域経済コース	<p>経済の根幹にはモノづくりがあり、その実態を知ることは経済の本質を理解する上で重要です。また、京都府には、京都市を中心に伝統のある、あるいは個性豊かなモノづくり企業が多数存在しています。本コースでは、そうした地域に密着した企業の経済活動について学びます。</p> <p>一方、現代の経済においては、大企業はもとより、中小企業といえども地域や国内だけではその活動が完結しません。そのため、本コースでは、地域経済とグローバル経済の結びつきについても学び、考えることで、多角的な視野から地域経済に貢献し地域で活躍できる能力を育みます。</p>
ファイナンスコース	<p>近年、情報通信技術や演算処理技術の発達に伴い、金融市場の規模は実物経済市場を凌ぐ勢いで拡大しています。例えば、バブル経済の崩壊が企業の経営活動や市民生活に大きな打撃を与えたことをみても、いまや金融市場の実態を軽視することはできないのは明らかです。それに対して、個人が金融危機等のリスクに対処するには、そのリスクを正しく理解するとともに、所有する資産を安全に運用することが必要です。</p> <p>本コースでは、企業の資金調達方法や個人の資金運用方法等の金融活動の実態を中心に学ぶことで、地域金融機関等で活躍する人材、ファイナンシャル・プランナーとして自立する人材等に必要な金融の実務に携わる能力を身につけることができます。</p>
公務員コース	<p>我が国では、少子高齢化に伴う社会保障制度改革の重要性が急速に高まっているのに対し、度重なる公債発行を背景に、財政の健全化が喫緊の課題となっています。こうした状況の下で、国民一人ひとりの政策に対する正しい見識は必要不可欠です。</p> <p>本コースでは、1年次生のオリエンテーションをスタートにして、4年間継続的に採用試験合格に必要な支援を行っていきます。また、公務員を目指す学生に対しての個別的な支援、採用試験および採用後の仕事の現場で役立つ科目として、履修推奨科目も設けています。本コースでは、政府の活動に関するあるべき姿を正しく理解し、すべての人にとってより住みやすい市民社会を実現させる方法を提案することのできる人材を養成します。</p>

航空観光コース	このコースでは、将来、航空・観光業界をはじめサービス業で働くことを目指す学生を育成するため、各種の正課・課外特別授業を用意しています。また、ANAグループや JAL グループの企業と提携して、各種セミナー、インターンシップ等への優先参加を可能にしています。特に、ANA グループの NPO 法人とはセミナー実施や就職支援を受けるための契約を結んで、本コースをすすめています。
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

コースと並行して、次のプログラムが設けられています。※詳細は後述を参照してください。

プログラム	プログラムの特徴
A I P《アドバンス・インターンシップ・プログラム》	京都の企業で3カ月間に渡って就業体験に取り組むプログラムです。一つの企業でさまざまな業務を体験し、仕事の広がりや魅力を理解するとともに、将来はどんな仕事に就きたいかといった職業観を養うことができます。ビジネスマナーを修得する事前学修も充実しており、ビジネスパーソンとしての基礎づくりに役立ちます。
G I P《グローバル・インターンシップ・プログラム》	約2カ月半、海外の仕事の現場を体験できる国際的なインターンシップ・プログラムです。参加希望者は3年次の春学期に中国・江蘇省の南通大学で約2カ月半の語学研修にチャレンジ。中国語での基本的なコミュニケーション能力を身につけてから企業での研修に臨みます。中国企業ならびに中国に進出した日系企業などと連携し、国際ビジネスの最前線を体感しています。

7. ゼミナール科目

ゼミナールは、大学における学修活動の中心となり、各自の積極的な参加が求められる特別な位置づけの科目です。全科目(下表参照)自動登録科目です(実践プロジェクト除く)。「専門ゼミ」では、大学生活を充実したものにするために、また就職活動を有利に運ぶためにも、学修したい分野と各ゼミナールの特徴をよく考えて、自分に適したゼミナールを選ぶことが大切です。

年次	セメスター	科目	科目の概要(詳細はシラバス参照)
1	1	スタートアップゼミⅠ (必修)	全学部共通の授業内容として課題解決型学習(PBL)が行われます。これは、社会人として不可欠な問題発見力、問題解決力、ならびに協働意欲を身につけることを目的としています。受講者は、チームを組んで特定のテーマについて調査やグループワークを行い、調査結果や解決案を提示することを通して、上記の力を修得していきます。
	2	スタートアップゼミⅡ (必修)	
3	5	専門ゼミⅠ	卒業論文作成に向けて、研究活動を展開します。あわせて、コミュニケーション力等の醸成を目指します。
	6	専門ゼミⅡ	
4	7	専門ゼミⅢ	専門ゼミⅣでは卒業論文の指導が中心になります。卒業論文の作成・提出および合格基準を充たすことが単位認定と卒業の条件です。
	8	専門ゼミⅣ	

8. キャリア教育

キャリア形成および就職活動への具体的な準備作業にむけて、取り組みます。

〈キャリア教育・科目の概要〉

年次	セメスター	科目	科目の概要(詳細はシラバス参照)
1	1	キャリアデザインⅠ (必修)	社会的・職業的自立に必要な基礎的能力の修得を目指します。
	2	キャリアデザインⅡ (必修)	課題発見力や論理的思考力の獲得を目指します。
2	3	実践プロジェクトⅠ	フィールドワーク等体験学修を通じてコミュニケーション力、協働力、適応力、課題発見力、行動力等の育成を目的としています。
	4	実践プロジェクトⅡ	

3	5	キャリア形成実践演習Ⅰ	進学および就職活動の準備を行います。民間企業への就職希望者は自己分析・自己PRの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等、進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成を行います。
		AIP GIP	長期（2～3カ月）に渡るインターンシップ
	6	キャリア形成実践演習Ⅱ	主に民間企業就職希望者向けの科目として、面接、グループディスカッション対策、企業選択等を実践します。

9. アドバイザー制度とオフィス・アワー

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任が指導を行います。例えば、卒業後の進路を踏まえての履修指導、出席不良や成績不振だった場合のその原因の発見と改善策の提案など、多様な事柄や問題について学生と共にその解決策や最善策を考えます。

また、担任・副担任以外の専任教員から、履修・修学に関する助言を受ける機会もあり、専任教員は、毎週数時間、オフィス・アワーとして相談時間を設けています。

10. 成績不振基準

履修を計画的に行い4年間で大学を卒業できるよう成績不振基準を設けています。表に記載されている基準に達していない学生およびその保証人に対しては「成績不振」の通告が出され、該当学生が所属するゼミ担当教員が中心となって今後に向けての適切な指導が行われます。なお、表の基準のみならず必修科目の単位を修得していない場合や進級要件を満たせないなども成績不振になる場合があります。1セメ終了時については、修得単位数が14単位以下である場合はもとより、スタートアップゼミⅠの単位が修得できなかった場合も成績不振となります。

表 成績不振基準（単位数）

経済経営学部		
セメスター	総修得単位数	各セメでの修得単位数
1年生	1セメ終了時 14以下	
	2セメ終了時 30以下	2セメでの修得単位数 15以下
2年生	3セメ終了時 45以下	3セメでの修得単位数 15以下
	4セメ終了時 60以下	4セメでの修得単位数 15以下
3年生	5セメ終了時 75以下	5セメでの修得単位数 15以下
	6セメ終了時 90以下	6セメでの修得単位数 15以下
4年生	7セメ終了時 105以下	

*この基準のみならず必修科目の単位を修得していない、進級要件を満たせない等も成績不振基準となる場合があります。

経済学科 授業科目一覧表

《記載項目について》

履修形態

必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）

自動登録・・・自動的に履修登録される科目（全員が指定されたセメスターで履修する科目）

配当年次：履修可能な年次を○で表しています。

必修科目は、単位未修得の場合、原則として修得できるまで自動登録されます（p.32 参照）。

大学共通コア科目一覧

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位数	
			必修	自動登録	選択						
大学共通コア科目	未来展望科目	CF3201	コミュニティの再生			2		○	○	○	4単位以上
		CF3202	生命の歩みと未来			2		○	○	○	
		CF3203	グローバル化と多様性			2		○	○	○	
		CF3204	科学技術の革新			2		○	○	○	
		CF3205	クオリティ・オブ・ライフの探究			2		○	○	○	
		CF2206	未来展望ゼミ			2	○	○			
	公民教養科目	CC1201	日本国憲法			2	○	○	○	○	選択
		CC1202	健康スポーツ理論			2	○	○	○	○	
		CC1203	法学			2	○	○	○	○	
		CC1204	生命倫理学			2	○	○	○	○	
		CC1205	人権の歴史と現代			2	○	○	○	○	
	アカデミック・スキル科目	CA1101	日本語リテラシーⅠ	1			○	○			必修5単位
		CA2102	日本語リテラシーⅡ	1			○	○			
		CA3103	アカデミック・ライティングⅠ		1			○			
		CA4104	アカデミック・ライティングⅡ		1			○			
		CA1105	数的処理Ⅰ	1			○	○			
		CA2106	数的処理Ⅱ	1			○	○			
		CA3107	数的処理Ⅲ		1			○			
		CA4108	数的処理Ⅳ		1			○			
		CA1109	情報リテラシー	1			○	○			
		CA2110	情報プレゼンテーション			1	○	○	○	○	
	英語科目	CE1401	英語Ⅰ	4			○	○			必修16単位
		CE3202	英語Ⅱ	2				○	○		
		CE4203	英語Ⅲ	2				○	○		
		CE5104	英語Ⅳ	1					○	○	
		CE6105	英語Ⅴ	1					○	○	
		CE1206	英会話Ⅰ	2			○	○			
		CE3107	英会話Ⅱ	1				○	○		
		CE4108	英会話Ⅲ	1				○	○		
		CE5109	英会話Ⅳ	1					○	○	
		CE6110	英会話Ⅴ	1					○	○	
		CE3111	上級英語Ⅰ			1		○	○	○	
		CE3112	上級英語Ⅱ			1		○	○	○	

必修33単位を含む50単位以上

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位数	
			必修	自動登録	選択						
大学共通コア科目	第二外国語科目	CL1101	ベーシック中国語Ⅰ			1	○	○	○	○	選択
		CL1102	ベーシック中国語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1103	ベーシック韓国語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1104	ベーシック韓国語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1105	ベーシックドイツ語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1106	ベーシックドイツ語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1107	ベーシックフランス語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1108	ベーシックフランス語Ⅱ			1	○	○	○	○	
	日本語科目 (留学生対象)	CJ1201	日本語Ⅰ	2			○	○			必修6単位
		CJ1202	日本語Ⅱ	2			○	○			
		CJ1203	日本語作文演習	2			○	○	○		
	スタートアップ科目	CU1201	スタートアップゼミⅠ	2			○				必修4単位
		CU2202	スタートアップゼミⅡ	2			○	○			
	キャリア教育科目	CR1201	キャリアデザインⅠ	2			○	○			必修4単位
		CR2202	キャリアデザインⅡ	2			○	○			
		CR5103	キャリア形成実践演習Ⅰ		1				○		
		CR6104	キャリア形成実践演習Ⅱ		1				○		
		CR1105	海外研修ⅠA			1	○	○	○	○	
		CR1106	海外研修ⅠB			1	○	○	○	○	
		CR1207	海外研修ⅡA			2	○	○	○	○	
		CR1208	海外研修ⅡB			2	○	○	○	○	
		CR1409	海外研修ⅢA			4	○	○	○	○	
		CR1410	海外研修ⅢB			4	○	○	○	○	
		CR1111	インターンシップ実習ⅠA			1	○	○	○		
		CR1112	インターンシップ実習ⅠB			1	○	○	○		
		CR1213	インターンシップ実習ⅡA			2	○	○	○		
		CR1214	インターンシップ実習ⅡB			2	○	○	○		
		CR1415	インターンシップ実習ⅢA			4	○	○	○		
		CR1416	インターンシップ実習ⅢB			4	○	○	○		
		CR1117	サービス・ラーニングⅠA			1	○	○	○	○	
		CR1118	サービス・ラーニングⅠB			1	○	○	○	○	
		CR1219	サービス・ラーニングⅡA			2	○	○	○	○	
		CR1220	サービス・ラーニングⅡB			2	○	○	○	○	
CR1421	サービス・ラーニングⅢA			4	○	○	○	○			
CR1422	サービス・ラーニングⅢB			4	○	○	○	○			
スポーツ・ライフスキル科目	CS1101	SLSⅠ	1			○	○			必修4単位	
	CS2102	SLSⅡ	1			○	○				
	CS3103	SLSⅢ	1				○	○			
	CS4104	SLSⅣ	1				○	○			

必修33単位を含む50単位以上

経済学科 授業科目一覧表

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	備考	卒業要件 単位数		
			必修	自動登録	選択								
学部 共通科目	入門科目	ZB1201	日本経済入門		2		○	○	○	○	必修10単位・選択必修8単位を含む74単位以上(ただし、他学科、他学部などで修得した12単位を上限に含むことができる)、ならびに卒業論文の審査に合格すること 選択必修8単位を修得すること		
		ZB1202	経済学入門		2		○	○	○	○			
		ZB1203	経営学入門			2		○	○	○		○	
		ZB1204	経営学総論			2		○	○	○		○	
		ZB1205	ビジネスデータの見方		2			○	○	○		○	
		ZB1206	入門簿記			2		○	○	○		○	
		ZB1207	ビジネスのための数学入門			2		○	○	○		○	
		ZB1208	京都のビジネス			2		○	○	○		○	
		ZB3209	株式投資入門			2			○	○		○	
	キャリア 科目	ZC1201	国際航空観光ビジネス論			2		○	○	○		○	
		ZC3202	実践プロジェクトⅠ			2			○				
		ZC3203	実践プロジェクトⅡ			2			○				
		ZC3204	警察・消防特別研究			2			○	○		○	
		ZC5205	公務員特別研究Ⅰ			2				○		○	
		ZC5206	公務員特別研究Ⅱ			2				○		○	
		ZC5207	AIP入門			2						○	AIP
		ZC5208	京の企業Ⅰ			2						○	AIP
		ZC5209	京の企業Ⅱ			2						○	AIP
		ZC5410	企業実務A			4						○	AIP
		ZC5411	企業実務B			4						○	AIP
		ZC5412	企業実務C			4						○	AIP
		ZC5213	企業実務D			2						○	AIP
		ZC5414	現代アジア事情A			4						○	GIP
		ZC5415	現代アジア事情B			4						○	GIP
		ZC5216	現代アジア事情C			2						○	GIP
		ZC5417	海外企業実務A			4						○	GIP
		ZC5418	海外企業実務B			4						○	GIP
		ZC5419	海外企業実務C			4						○	GIP
		ZC5220	海外企業実務D			2						○	GIP
		学科 専門科目	基礎科目	EF1201	マクロ経済入門	2			○	○			
EF1202	ミクロ経済入門			2			○	○					
EF3203	経済史入門					2			○	○	○		
EF3204	国際経済入門			2					○	○	○		
EF3205	経済政策入門				2				○	○	○		
EF3206	社会政策入門					2			○	○	○		
EF3207	白書で学ぶ現代日本				2				○	○	○		
EF3208	財政入門			2					○	○	○		
EF3209	金融入門			2					○	○	○	AFP	
EF3210	先端的経済分析					2			○	○	○		
EF3211	先端的政策分析					2			○	○	○		

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	備考	卒業要件 単位数	
			必修	自動登録	選択							
学科専門科目	展開科目	EE3201	経済史			2		○	○	○		
		EE3202	国際経済学			2		○	○	○		
		EE3203	金融論			2		○	○	○		
		EE3204	マクロ経済学			2		○	○	○		
		EE3205	ミクロ経済学			2		○	○	○		
		EE3206	計量経済学			2		○	○	○		
		EE3207	経済法			2		○	○	○		
		EE3208	経済政策論			2		○	○	○		
		EE3209	社会政策論			2		○	○	○		
		EE3210	財政学			2		○	○	○		
		EE3211	行政法			2		○	○	○		
		EE3212	労働法			2		○	○	○		
		EE3213	刑法			2		○	○	○		
		EE3214	刑事訴訟法			2		○	○	○		
		EE3215	ファイナンシャル・プランニングⅠ			2		○	○	○		AFP
		EE3216	ファイナンシャル・プランニングⅡ			2		○	○	○		AFP
		EE3217	ファイナンシャル・プランニングⅢ			2		○	○	○		AFP
		EE5218	税務会計論			2			○	○		
		EE3219	財務諸表論			2		○	○	○		
		EE5220	国際金融論			2			○	○		
		EE5221	環境経済学			2			○	○		
		EE5222	国際法			2			○	○		
		EE5223	国際経済法			2			○	○		
		EE5224	金融政策論			2			○	○		
		EE5225	公共経済学			2			○	○		
		EE5226	地方財政論			2			○	○		
		EE5227	社会保障論			2			○	○		
	EE5228	社会保障法			2			○	○			
	EE5229	刑事政策			2			○	○			
	EE5230	デリバティブ論			2			○	○			
	EE5231	証券市場論			2			○	○			
	EE5232	金融商品取引法			2			○	○			
	EE5233	税法			2			○	○			
演習科目	ES5201	専門ゼミⅠ			2			○				
	ES6202	専門ゼミⅡ			2			○				
	ES7203	専門ゼミⅢ			2				○			
	ES8204	専門ゼミⅣ			2				○			

必修10単位・選択必修8単位を含む74単位以上(ただし、他学科、他学部などで修得した12単位を上限に含むことができる)、ならびに卒業論文の審査に合格することを得た

《外国人留学生の方へ》

- ① 外国人留学生は、下記の所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります（大学共通コア科目の日本語リテラシーⅠ・Ⅱおよび数的処理Ⅰ・Ⅱを履修する必要はありません）。
- ② 目的は外国人留学生の日本語技能を引き上げ、卒業論文の作成を支援することにあります。

※本プログラム科目の履修について不明な点がある場合は、教務センターに問い合わせてください。

☆外国人留学生対象日本語プログラム科目の概要、履修対象者、および履修要件

科目名	単位数	科目の概要	履修対象者および履修要件
日本語Ⅰ (必修)	2	やや高度な日本語読解・聴解技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	①外国人留学生全員 ②3年生進級時までに単位を修得してください。
日本語Ⅱ (必修)	2	やや高度な日本語文法・作文・会話・発表技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	同上
日本語作文演習 (必修)	2	日本語レポートを作成できる論理的な文章の書き方を修得します。	①「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」単位修得者 ②4年生進級時までに単位を修得してください。

経済学科 履修モデル

コースごとの履修モデルを紹介します。これらのモデルを参考にして履修計画をたててください。

★必修科目 ●自動登録科目 ○当該コースで特に推奨される科目 (丸数字は単位数)

《ビジネスリーダーコース》

セメスター		1	2	3	4	5	6	7	8	
大学共通 コア科目	未来展望科目			未来展望ゼミ②	グローバルイニシエーションと多様性②					
	公民教養科目	法学②								
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ①	★日本語リテラシーⅡ①	●アカデミック・ライティングⅠ①	●アカデミック・ライティングⅡ①					
		★数的処理Ⅰ①	★数的処理Ⅱ①	●数的処理Ⅲ①	●数的処理Ⅳ①					
		★情報リテラシー①								
			情報プレゼンテーション①							
	英語科目	★英語Ⅰ④ (②+②)		★英語Ⅱ②	★英語Ⅲ②	★英語Ⅳ①	★英語Ⅴ①			
		★英会話Ⅰ② (①+①)		★英会話Ⅱ①	★英会話Ⅲ①	★英会話Ⅳ①	★英会話Ⅴ①			
						上級英語Ⅰ①	上級英語Ⅱ①			
	第二外国語科目			ベーシック中国語Ⅰ①	ベーシック中国語Ⅱ①					
スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②								
キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②				●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①			
SLS科目	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①						
学部共通 科目	入門科目	●経済学入門② ●日本経済入門② ビジネスのための数学入門② 経営学総論②	●ビジネスデータの 見方② 京都のビジネス② 入門簿記② 経営学入門②							
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②					
学科専門 科目	基礎科目		★マクロ経済入門② ★ミクロ経済入門②	★国際経済入門② ★財政入門② ★金融入門② ●経済政策入門②	●白書で学ぶ現代 日本②	社会政策入門② 経済史入門②				
	展開科目			マクロ経済学② ミクロ経済学②	国際経済学② 金融論② 計量経済学② 経済法② 経済政策論②	金融政策論② 財務諸表論② 国際法②	国際金融論② 財政学② 税務会計論② 国際経済法② 社会政策論② 労働法②			
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②	●専門ゼミⅣ②	

《地域経済コース》

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8	
大学共通コア科目	未来展望科目			コミュニティの再生②	クオリティ・オブ・ライフの探究②				
	公民教養科目	日本国憲法② 法学②			健康スポーツ理論②				
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシー I ①	★日本語リテラシー II ①	●アカデミック・ライティング I ①	●アカデミック・ライティング II ①				
		★数的処理 I ①	★数的処理 II ①	●数的処理 III ①	●数的処理 IV ①				
		★情報リテラシー ①							
	英語科目	★英語 I ④ (②+②)		★英語 II ②	★英語 III ②	★英語 IV ①	★英語 V ①		
		★英会話 I ② (①+①)		★英会話 II ①	★英会話 III ①	★英会話 IV ①	★英会話 V ①		
	第二外国語科目								
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミ I ②	★スタートアップゼミ II ②						
	キャリア教育科目	★キャリアデザイン I ②	★キャリアデザイン II ②			●キャリア形成実践演習 I ①	●キャリア形成実践演習 II ①		
SLS科目	★SLS I ①	★SLS II ①	★SLS III ①	★SLS IV ①					
学部共通科目	入門科目	●経済学入門② ●日本経済入門② ビジネスのための数学入門② 経営学総論②	●ビジネスステータの見方② 京都のビジネス② 入門簿記② 経営学入門②						
	キャリア科目			実践プロジェクト I ②	実践プロジェクト II ②				
学科専門科目	基礎科目		★マクロ経済学入門② ★ミクロ経済学入門②	★国際経済学入門② ★財政入門② ★金融入門② ●経済政策入門② 社会政策入門②	●白書で学ぶ現代日本②	経済学入門②			
	展開科目			マクロ経済学② ミクロ経済学②	国際経済学② 金融論② 経済政策論② 経済法②	国際金融論② 環境経済学② 地方財政論② 公共経済学② 財務諸表論②	国際金融論② 社会政策論② 財政学②		
	演習科目					●専門ゼミ I ②	●専門ゼミ II ②	●専門ゼミ III ②	●専門ゼミ IV ②

《ファイナンスコース》

セメスター		1	2	3	4	5	6	7	8	
大学 共通 コア 科目	未来展望科目		未来展望ゼミ②		クオリティ・オブ・ライフの探究②	グローバルイノベーションと多様性②				
	公民教養科目	日本国憲法② 人権の歴史と現代②								
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ①	★日本語リテラシーⅡ①	●アカデミック・ライティングⅠ①	●アカデミック・ライティングⅡ①					
		★数的処理Ⅰ①	★数的処理Ⅱ①	●数的処理Ⅲ①	●数的処理Ⅳ①					
		★情報リテラシー①								
			情報プレゼンテーション①							
	英語科目	★英語Ⅰ④ (②+②)		★英語Ⅱ②	★英語Ⅲ②	★英語Ⅳ①	★英語Ⅴ①			
		★英会話Ⅰ② (①+①)		★英会話Ⅱ①	★英会話Ⅲ①	★英会話Ⅳ①	★英会話Ⅴ①			
	第二外国語科目									
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②							
キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②				●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①			
SLS科目	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①						
学部 共通 科目	入門科目	●経済学入門② ●日本経済入門② ビジネスのための数学入門②	●ビジネスデータの見方② 入門簿記② 京都のビジネス②	株式投資入門②						
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②					
学科 専門 科目	基礎科目		★マクロ経済入門② ★ミクロ経済入門②	★国際経済入門② ★財政入門② ★金融入門② ●経済政策入門②	●白書で学ぶ現代日本②	社会政策入門②				
	展開科目			○ファイナンシャル・プランニングⅠ② マクロ経済学② ミクロ経済学②	○ファイナンシャル・プランニングⅡ② ○ファイナンシャル・プランニングⅢ② 金融論② 計量経済学② 財政学②	国際金融論② 証券市場論② 金融商品取引法② 財務諸表論② 社会保障論② デリバティブ論② 金融政策論②	税務会計論② 税法② 地方財政論②			
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②	●専門ゼミⅣ②	

《公務員コース》

セメスター		1	2	3	4	5	6	7	8
大学 共通 コア 科目	未来展望科目		未来展望ゼミ②		コミュニティの再生②				
	公民教養科目	○日本国憲法② ○法学②		人権の歴史と現代②					
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ①	★日本語リテラシーⅡ①	●アカデミック・ライティングⅠ①	●アカデミック・ライティングⅡ①				
		★数的処理Ⅰ①	★数的処理Ⅱ①	●数的処理Ⅲ①	●数的処理Ⅳ①				
		★情報リテラシー①							
			情報プレゼンテーション①						
	公民教養科目	★英語Ⅰ④(②+②)		★英語Ⅱ②	★英語Ⅲ②	★英語Ⅳ①	★英語Ⅴ①		
		★英会話Ⅰ②(①+①)		★英会話Ⅱ①	★英会話Ⅲ①	★英会話Ⅳ①	★英会話Ⅴ①		
	第二外国語科目								
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②						
キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②				●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①		
SLS科目	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①					
学部 共通 科目	入門科目	●経済学入門② ●日本経済入門② ビジネスのための数学入門②	●ビジネスデータの見方② 京都のビジネス② 経営学入門②						
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ② ○警察・消防特別研究②	○公務員特別研究Ⅰ②	○公務員特別研究Ⅱ②		
学科 専門 科目	基礎科目		★マクロ経済入門② ★ミクロ経済入門②	★国際経済入門② ★財政入門② ★金融入門② ●経済政策入門②	●白書で学ぶ現代日本②	○社会政策入門② ○(B)民法総則②	○(B)契約・不法行為法②		
	展開科目			○刑法② ミクロ経済学② マクロ経済学②	○刑事訴訟法② ○行政法② 経済政策論② 財政学②	○刑事政策② 公共経済学② 地方財政論② 国際法② 社会保障論②	国際経済法② 社会政策論② 税法②	金融政策論②	
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②	●専門ゼミⅣ②

《航空観光コース》

セメスター		1	2	3	4	5	6	7	8	
大学 共通 コア 科目	未来展望科目				グローバルイニシエーションと多様性②	科学技術の革新②				
	公民教養科目			日本国憲法②						
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ①	★日本語リテラシーⅡ①	●アカデミック・ライティングⅠ①	●アカデミック・ライティングⅡ①					
		★数的処理Ⅰ①	★数的処理Ⅱ①	●数的処理Ⅲ①	●数的処理Ⅳ①					
		★情報リテラシー①								
			情報プレゼンテーション①							
	英語科目	★英語Ⅰ④(②+②)		★英語Ⅱ②	★英語Ⅲ②	★英語Ⅳ①	★英語Ⅴ①			
		★英会話Ⅰ②(①+①)		★英会話Ⅱ①	★英会話Ⅲ①	★英会話Ⅳ①	★英会話Ⅴ①			
				上級英語Ⅰ①	上級英語Ⅱ①					
第二外国語科目					第二外国語Ⅰ①	第二外国語Ⅱ①				
スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②								
キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②				●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①			
SLS科目	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①						
学部 共通 科目	入門科目	●経済学入門② ●日本経済入門② ○国際航空観光ビジネス論② ビジネスのための数学入門② 経営学総論②	●ビジネスデータの 見方② 入門簿記② 経営学入門②							
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②					
学科 専門 科目	基礎科目		★マクロ経済入門② ★ミクロ経済入門②	★国際経済入門② ★財政入門② ★金融入門② ●経済政策入門②	●白書で学ぶ現代日本②	経済史入門②				
	展開科目			マクロ経済学② ミクロ経済学②	国際経済学② 金融論② 経済政策論② 労働法② 財務諸表論②	○公共経済学② 環境経済学② 国際法② 国際金融論②	経済政策論② 財政学② 税務会計論② 国際経済法② 経済史②			
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②	●専門ゼミⅣ②	

A F P資格講座

経済学科では、A F P資格講座を開設しています。ファイナンシャル・プランナー(F P)の資格修得を目指す人はチャレンジしてみてください。

1. A F P資格

A F Pとは、F P資格の一つです。本学は2012年度からA F P認定教育機関となりました。経済学科で開設される所定の4科目を受講して、提案書課題を作成すれば、A F P研修の修了書が発行され、A F P資格修得要件の1つ(下記4.(1))が満たされます。さらに、ここで学んだ知識をベースにしてA F P資格審査試験に合格すれば、A F P資格修得が実現します。

2. ファイナンシャル・プランナー

ライフスタイルや価値観、経済環境を踏まえながら、家族状況、収入と支出の内容、資産、負債、保険など顧客に関するあらゆるデータを集めて、現状を分析します。そして、顧客のライフプラン上の目標を達成するため、問題や不安を解決するために、顧客の立場で考え、長期的かつ総合的な視点で様々なアドバイスや資産設計を行い、併せてその実行を援助するファイナンシャル・プランニングの専門家です。

銀行、証券会社、保険会社、税理士などの職業に就いた場合は、業務上、修得が望ましい資格と位置づけられています。

3. F P資格の種類

(1) 民間資格(日本F P協会が認定)

C F P®資格(certificated financial planner、上級F P資格であり、国際資格)、A F P資格(affiliated financial planner、普通資格であり、日本国内で通用)

(2) 国家資格

1級F P技能士、2級F P技能士、3級F P技能士(いずれも日本国内で通用)

(注) 1級F P技能士がC F Pに、2級F P技能士がA F Pに対応。

4. A F P資格修得要件

(1) 日本F P協会が認定する教育機関で68時間以上の研修を受け、一定水準を満たす提案書課題を作成(A F P研修の修了証明書)

(2) A F P資格審査試験(2級F P技能検定の試験を兼ねている)に合格

5. 経済学科の開講科目

A F P研修修了のために単位修得すべき科目は、以下の4科目(計8単位)であり、「ファイナンシャル・プランニングⅢ」の講義の中で提案書課題を作成します。A F P研修の修了証明書が発行されます。

「金融入門」「ファイナンシャル・プランニングⅠ」「ファイナンシャル・プランニングⅡ」「ファイナンシャル・プランニングⅢ」

(注1) 「ファイナンシャル・プランニングⅡ」を履修登録するには、「ファイナンシャル・プランニングⅠ」と「金融入門」の単位を修得していなければなりません。

(注2) 「ファイナンシャル・プランニングⅡ」と「ファイナンシャル・プランニングⅢ」は同時に履修登録する必要があります。

(注3) 日本F P協会の規約により、A F P研修(上記4科目の単位修得)は、原則として1年以内に行わなければなりません。ただし、時間割の関係上、1年以内での履修登録ができない、あるいは単位を取りこぼしたときは、2年以内での単位修得が認められます。

第2章 経営学科

教育目的と3つのポリシー

＜経営学科の教育目的＞

経営学を中心に経済学・法学分野の科目も配し、ビジネスパーソンとして必要な幅広い教養と実体験重視の学修を通じて、社会人として自立できる人材の育成を目的とする。

＜入学者受け入れの方針＞（アドミッション・ポリシー）

本学科の教育目的に示した人材を育成するために、明確な目的意識と情熱を持ち、高等学校で履修した教科・科目について、基礎的な知識を有し、自分の考えを伝えられる日本語力、さまざまな課題に積極的に挑戦しようとする意欲、活動に積極的に取り組む姿勢、コミュニケーションを効果的に図り、相互理解に努めようとする態度を有する人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校で履修する国語、英語、地理歴史、数学などについての基礎的な知識を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・企業やショップの経営について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・経営学に強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識の修得と実践のために、多様な人々と協働して取り組める。

＜教育課程編成・実施の方針＞（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程編成

- ・1.1 教育課程として、基礎科目と展開科目を配置します。
- ・1.2 基礎科目では、経営学の学修に必要な基礎的な知識と技能を修得することを目的とし、それに必要な経営学分野の基幹科目および一般的な科目を配置します。
- ・1.3 展開科目では、基礎科目で得た知識と技能を基にしたより専門性の高い科目を配置し、経営学の知識を駆使した高度な問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

- ・2.1 （学修方法）学科の教育課程では、経営学の各分野における理論体系やその実社会との関連性について学修します。
- ・2.2.1 （学修過程）学科専門科目では、基礎科目から展開科目へと学修を進めることを通じて、段階的かつ体系的に経営学を学びます。
- ・2.2.2 1年次には、学科専門の基礎科目の一部を学修することで、経営学の基礎知識を得るとともに、経営学の目的と意義を理解します。
- ・2.2.3 2年次には、学科専門の基礎科目と並んで展開科目の学修を開始することで、より高度な経営学の理論に基づく問題解決力を養う学修を行います。
- ・2.2.4 3年次からは、少人数のゼミナールにおいて各々の関心に応じて経営学に関する専門分野における学修を行います。
- ・2.2.5 4年次では、各々の設定した経営分野に関するテーマについてゼミナールにおいて指導を受けながら卒業研究を行い、課題発見力・解決力を養う学修を行います。
- ・2.3（学修過程） ビジネスパーソンとして社会の第一線で活躍できる能力を養うべく両学科共通のコースと学科独自のコースで段階的に学修を進め、経営学の専門的知見に基づく主体性および問題解決力を育みながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

- ・3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、経営学科のアセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- ・3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準はシラバスを示し、到達目標の達成度を評価します。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解
 - 1.1 社会科学とその関連分野の学修を通じて社会をとりまく諸現象に関する歴史的経緯や法則性を理解し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 技能
 - 2.1 社会人として必要な幅広い教養と経営学の専門知識を有し、それを活用できる。
 - 2.2 経営学の専門教育とキャリア教育から得た知識・意識を通じて、社会人としてのキャリアデザインを長期的視野に立って描くことができる。
3. 思考・判断・表現
 - 3.1 経営学の専門分野の学修を通じて得た知識をもとに、複眼的な視野で、ならびに理論と実践の融合の観点から経営上の諸課題を分析することができる。
 - 3.2 自ら設定した経営分野における主題について、経営学で用いられる適切な手法を用いて結論を導き、それを論理的かつ客観的に説明することができる。
4. 関心・意欲・態度
 - 4.1 企業を含む組織がグローバル社会において直面する諸課題に関心を示し、その解決に向けて経営学分野の専門的知見に基づいて行動することができる。
 - 4.2 経営学分野の専門的知見に基づいて、企業を含む組織の活動へ積極的に参画することができる。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。
2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。
3. 教育課程レベル (学部・学科)

卒業論文、単位取得状況、GPA、資格の取得状況などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。
5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> • 入学試験 • 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> • 外部テスト • 学生満足度調査 • ポートフォリオ (マイステップ) • 課外活動の状況 • 休学率 • 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> • 学位授与数 • 就職率 • 資格・免許取得率
教育課程 (経済経営学部)	<ul style="list-style-type: none"> • 入学試験 • 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> • 取得単位数 • GPA • 外部テスト • インターンシップ成果報告会 • 学外での研究発表会 • ビジネス・プランニング・コンテスト • 成果物の展示 • 学生論集への掲載 • 休学率 • 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> • 学位授与数 • 卒業論文 • 就職率 • 資格取得者数
科目	<ul style="list-style-type: none"> • 入学前教育 • 英語プレースメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> • 成績評価 • 成果報告会 • 外部テスト • 授業評価アンケート • 企業アンケート 	

カリキュラム

1. 卒業に必要な単位数

科目分類		必修		選択 必修	選択	任意	
大学共 通コア 科目	未来展望科目			4	13		
	公民教養科目						
	アカデミック・ スキル科目	日本語リテラシーⅠ・Ⅱ	2				
		数的処理Ⅰ・Ⅱ	2				
		情報リテラシー	1				
	英語科目	英語Ⅰ～Ⅴ、英会話Ⅰ～Ⅴ	16				
	第二外国語科目						
	日本語科目						
	スタートアップ科目	スタートアップゼミⅠ・Ⅱ	4				
キャリア教育科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ	4					
スポーツ・ライフスキル(SLS)科目	SLSⅠ～Ⅳ	4					
大学共通小計			33	4	13		50
学部共 通科目	入門科目			8	46	12	
	キャリア科目						
学科専 門科目	基礎科目	経営戦略入門、会計学入門、 事業構想概論、経営情報シ ステム論	8				
	展開科目						
	演習科目						
学部学科小計			8	8	46	12	74
総計			41	12	59	12	124

- ・第8セメスター以降に「卒業論文」を提出し、合格することを卒業要件とする。
- ・別途、進級要件を設ける。
- ・合計124単位（必修41単位、必修以外83単位）以上を修得すること。内訳は以下の通り。
大学共通コア科目から50単位以上を修得。その内、未来展望科目から4単位以上、アカデミック・スキル科目から必修5単位、英語科目から必修16単位、スタートアップ科目から必修4単位、キャリア教育科目から必修4単位、スポーツ・ライフスキル科目から必修4単位を含める。
- 学部共通科目と学科専門科目から74単位以上を修得。その内、学部共通科目の入門科目とキャリア科目から8単位以上、学科専門科目の基礎科目から必修8単位、並びに学部共通科目と学科専門科目から46単位以上を要修得。なお、他学科・他学部などで修得した単位は12単位を上限に含むことができる。
- 大学共通コア科目から修得した単位数が50単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。
- また、任意科目が12単位を超過した場合もその超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含みません。

2. 進級要件

上級学年に進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たさなければなりません。

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
卒業要件としての修得単位数※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上
単位修得が必要な 大学共通 コア科目	スタートアップゼミⅠ	スタートアップゼミⅡ 日本語リテラシーⅠ・Ⅱ 数的処理Ⅰ・Ⅱ 情報リテラシー 英語Ⅰ、英会話Ⅰ キャリアデザインⅠ・Ⅱ SLSⅠ・Ⅱ *外国人留学生は、日本語リテラシーⅠ・Ⅱと数的処理Ⅰ・Ⅱの代替として、日本語Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。	英語Ⅱ・Ⅲ 英会話Ⅱ・Ⅲ SLSⅢ・Ⅳ *外国人留学生は、さらに日本語作文演習の単位を修得していること。
単位修得が必要な 専門科目		会計学入門 経営戦略論入門	
在学期間	1 年次を 1 年間に在学していること。	2 年次進級後に 1 年間に在学していること。	3 年次進級後に 1 年間に在学していること。
留年期間・ 学費納入	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 1 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 2 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 3 年生の該当学費を納入する。

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

大学共通コア科目から修得した単位数が 50 単位を超過した場合、その超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含まれません。

また、任意科目が 12 単位を超過した場合もその超過単位数は進級要件に必要な単位数ならびに卒業要件に必要な単位数には含まれません。

3. 履修登録制限単位

すべてのセメスターにおいて、履修登録できる単位数は24単位（年間48単位）です。この制限単位数には、各セメスターの自動登録科目（次の項目参照）の単位が含まれています。通年科目については、原則、その登録期間にわたるセメスター数で割った単位数を履修登録しているとして処理されます。例えば、「英語Ⅰ④」は、1セメスターで2単位分、2セメスターで2単位分を履修登録しているとみなします。

1 年生		2 年生		3 年生		4 年生	
1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター
24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位
計48単位		計48単位		計48単位		計48単位	

- 各セメスターの自動登録科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
- 他学部受講科目の単位は、履修登録制限単位数に含まれる。
- 大学コンソーシアム京都の提供する科目の単位は、登録制限単位に含まれない。年間6単位を上限とする。
- 「インターンシップ実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」、「海外研修ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」、「サービス・ラーニングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB」の単位は、登録制限単位に含まれない。

4. 自動登録科目（所定のセメスターで履修が義務づけられている科目。★の科目は必修科目。丸数字は単位数）

年次	セメ	大学共通コア科目	学部共通科目	学科専門科目	自動登録単位数	自動登録以外の単位数
1	通年	英語Ⅰ④★ 英会話Ⅰ②★			6	
	1	情報リテラシー①★ スタートアップゼミⅠ②★ 日本語リテラシーⅠ①★ 数的処理Ⅰ①★ キャリアデザインⅠ②★ SLSⅠ①★		会計学入門②★ 経営戦略論入門②★	12	9
	2	スタートアップゼミⅡ②★ 日本語リテラシーⅡ①★ 数的処理Ⅱ①★ キャリアデザインⅡ②★ SLSⅡ①★			7	14
2	3	英語Ⅱ②★ 英会話Ⅱ①★ アカデミック・ライティングⅠ① 数的処理Ⅲ① SLSⅢ①★		事業構想概論②★ 経営情報システム論②★	10	14
	4	英語Ⅲ②★ 英会話Ⅲ①★ アカデミック・ライティングⅡ① 数的処理Ⅳ① SLSⅣ①★			6	18
3	5	英語Ⅳ①★ 英会話Ⅳ①★ キャリア形成実践演習Ⅰ①		専門ゼミⅠ②	5	19
	6	英語Ⅴ①★ 英会話Ⅴ①★ キャリア形成実践演習Ⅱ①		専門ゼミⅡ②	5	19
4	7			専門ゼミⅢ②	2	22
	8			専門ゼミⅣ②	2	22

必修科目(★)を上記セメスターで単位修得できなかった場合、原則翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

外国人留学生については、日本語Ⅰ、日本語Ⅱ、日本語作文演習も自動登録されます。これらを単位修得できなければ次セメスターにおいても自動登録されます。後述の《外国人留学生の方へ》も参照してください。

5. カリキュラムの構成

(1) 1年次における履修

大学での学修に必要な基礎能力や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目・公民教養科目・アカデミック・スキル科目）
- 情報機器・情報環境（情報リテラシー、情報プレゼンテーション）
- 外国語能力（英語、英会話、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語）
- 基礎的就業力育成（キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ）
- 経営学系入門・基礎科目（会計学入門、商学、経営戦略論入門、入門簿記、経営学総論など）

(2) 2年次における履修

経営学に関する基礎学修や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目・公民教養科目・アカデミック・スキル科目）
- 外国語能力（英語、英会話、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語）
- 経営学系基礎科目（事業構想概論、経営情報システム論、女性企業家講座など）
- 経営学系展開科目（経営学系入門・基礎科目で学んだ科目を礎にした学修）
- キャリア観育成（実践プロジェクト）

(3) 3年次以降における履修

経営学展開学修および研究活動

- コースを意識した経営学系展開科目
- キャリア形成実践演習
- AIP、GIP（後述参照）による理論と実践の融合

6. コース

系統的な学習を支援し卒業後の進路決定に役立つように、コースが設けられています。後述の各コースの履修モデルも参考にしてください。

コース	コースの特徴
経営戦略コース	<p>経営環境のグローバル化の速度が増す中、経営の知識と実践とのギャップを埋めることはますます重要となっています。とりわけ本学が立地する京都府、特に京都市は、国内の一地方というローカルな市場であるにもかかわらず、様々な国から観光客が集まるために、グローバルな消費者をも対象にしています。このように問題・課題が多様化かつ複雑化する中、課題にいち早く気づき、知識を通じてその解決策を見出すことが多くの企業に求められています。</p> <p>経営戦略コースでは、経営管理、経営情報、マーケティング等、企業や部署を選ばず能力を発揮し、活躍するビジネスパーソンに向けて養成するとともに、経営知識に基づき、現実の組織行動を論理的・実証的に捉え、問題発見と解決のための戦略を構想できる能力を修得していきます。</p>
会計コース	<p>我が国の経済を支える中小企業では、会計や財務における知識と実践のギャップを埋めることが極めて重要となっています。このような中、本学が立地する京都府、特に京都市には、多くの中小企業が存在しており、必要となる会計や財務のスキルを、実践を通じて身近に学ぶことができます。当然ながら、そのようなスキルを組織内で生かすためには、それがいかに経営にとって重要かという理論的知識が欠かせません。</p> <p>会計コースでは、会計・財務部門で活躍したい人、税理士や会計士を目指す人を対象にして、会計や財務の知識と実践を学ぶことを通して、会計情報の特徴や作成プロセスを理解した十分な会計能力を持つ人材を養成します。</p>
起業・事業承継コース	<p>本学が立地する京都府、特に京都市は、伝統のある古い企業と極めて新しい企業が共存しています。このような共存は各企業の多様な経営努力によるものです。</p> <p>起業・事業承継コースでは、起業や家業の承継等を目指す人を対象にして、この京都商業界の歴史と人脈を活かした経営諸領域の幅広い知識を学ぶとともに、時代のニーズに応じた事業展開を企画実行し、事業の発展を実現できる「ニュー・ビジネスリーダー」を養成します。起業、企業内ベンチャー、新規プロジェクト推進等に必要な知識と、フィールドワークなどの実践的学修を通じ自らのビジネス・アイデアをデザインできる能力を修得していきます。</p>
公務員コース	<p>我が国では、少子高齢化に伴う社会保障制度改革の重要性が急速に高まっているのに対し、度重なる公債発行を背景に、財政の健全化が喫緊の課題となっています。こうした状況の下で、国民一人ひとりの政策に対する正しい見識は必要不可欠です。</p> <p>本コースでは、1年次生のオリエンテーションをスタートにして、4年間継続的に採用試験合格に必要な支援を行なっていきます。また、公務員を目指す学生に対しての個別的な支援、採用試験および採用後の仕事の現場で役立つ科目として、履修推奨科目も設けています。本コースでは、政府の活動に関するあるべき姿を正しく理解し、すべての人にとってより住みやすい市民社会を実現させる方法を提案することのできる人材を養成します。</p>
航空観光コース	<p>このコースでは、将来、航空・観光業界をはじめサービス業で働くことを目指す学生を育成するため、各種の正課・課外特別授業を用意しています。また、ANAグループやJALグループの企業と提携して、各種セミナー、インターンシップ等への優先参加を可能にしています。特に、ANAグループのNPO法人とはセミナー実施や就職支援を受けるための契約を結んで、本コースをすすめています。</p>

コースと並行して、次のプログラムが設けられています。

※詳細は後述を参照してください。

プログラム	プログラムの特徴
AIP《アドバンス・インターンシップ・プログラム》	京都の企業で3カ月間に渡って就業体験に取り組むプログラムです。一つの企業でさまざまな業務を体験し、仕事の広がりや魅力を理解するとともに、将来はどんな仕事に就きたいかといった職業観を養うことができます。ビジネスマナーを修得する事前学修も充実しており、ビジネスパーソンとしての基礎づくりに役立ちます。
GIP《グローバル・インターンシップ・プログラム》	約2カ月半、海外の仕事の現場を体験できる国際的なインターンシップ・プログラムです。参加希望者は3年次の春学期に中国・江蘇省の南通大学で約2カ月半の語学研修にチャレンジ。中国語での基本的なコミュニケーション能力を身につけてから企業での研修に臨みます。中国企業ならびに中国に進出した日系企業などと連携し、国際ビジネスの最前線を体感しています。

7. ゼミナール科目

ゼミナールは、大学における学修活動の中心となり、各自の積極的な参加が求められる特別な位置づけの科目です。全科目(下表参照)自動登録科目です(実践プロジェクト除く)。「専門ゼミ」では、大学生活を充実したものにするために、また就職活動時を有利に運ぶためにも、学修したい分野と各ゼミナールの特徴をよく考えて、自分に適したゼミナールを選ぶことが大切です。

年次	セメスター	科目	科目の概要(詳細はシラバス参照)
1	1	スタートアップゼミⅠ (必修)	全学部共通の授業内容として課題解決型学習(PBL)が行われます。これは、社会人として不可欠な問題発見力、問題解決力、ならびに協働意欲を身につけることを目的としています。受講者は、チームを組んで特定のテーマについて調査やグループワークを行い、調査結果や解決案を提示することを通して、上記の力を修得していきます。
	2	スタートアップゼミⅡ (必修)	
3	5	専門ゼミⅠ	専門ゼミでは卒業論文の指導が中心になります。卒業論文作成に向けて、研究活動を展開します。卒業論文の合格基準を満たすことが卒業要件となり、専門ゼミⅣの単位修得条件となります。(なお、原則、専門ゼミの再履修登録はありません。)
	6	専門ゼミⅡ	
4	7	専門ゼミⅢ	
	8	専門ゼミⅣ	

8. キャリア教育・科目の概要

キャリア形成および就職活動への具体的な準備作業にむけて、取り組みます。

年次	セメスター	科目	科目の概要(詳細はシラバス参照)
1	1	キャリアデザインⅠ(必修)	社会的・職業的自立に必要な基礎的能力の修得を目指します。課題発見力や論理的思考力の獲得を目指します。
	2	キャリアデザインⅡ(必修)	
2	3	実践プロジェクトⅠ	フィールドワーク等体験学習を通じてコミュニケーション力、協働力、適応力、課題発見力、行動力等の育成を目的としています。
	4	実践プロジェクトⅡ	
3	5	キャリア形成実践演習Ⅰ	進学および就職活動の準備を行います。民間企業への就職希望者は自己分析・自己PRの作成と発表、公務員希望者は模擬試験、面接対策等、進学希望者は進学希望先の調査、試験への対策、模擬試験、研究計画書の作成などを行います。
		AIP GIP	
	6	キャリア形成実践演習Ⅱ	主に民間企業就職希望者向けの科目として、面接、グループディスカッション対策、企業選択等を実践します。

9. アドバイザー制度とオフィス・アワー

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任が指導を行います。例えば、卒業後の進路を踏まえての履修指導、出席不良や成績不振だった場合のその原因の発見と改善策の提案など多様な事柄や問題について学生と共にその解決策や最善策を考えます。

また、担任・副担任以外の専任教員から、履修・修学に関する助言を受ける機会もあり、専任教員は、毎週数時間、オフィス・アワーとして相談時間を設けています。

10. 成績不振基準

履修を計画的に行い4年間で大学を卒業できるよう成績不振基準を設けています。表に記載されている基準に達していない学生およびその保証人に対しては「成績不振」の通告が出され、該当学生が所属するゼミ担当教員が中心となって今後に向けての適切な指導が行われます。なお、表の基準のみならず必修科目の単位を修得していない場合や進級要件を満たせないなども成績不振になる場合があります。1セメ終了時については、修得単位数が14単位以下である場合はもとより、スタートアップゼミⅠの単位が修得できなかった場合も成績不振となります。

表 成績不振基準（単位数）

経済経営学部		
セメスター	総修得単位数	各セメでの修得単位数
1 年生	1 セメ終了時 14 以下	
	2 セメ終了時 30 以下	2 セメでの修得単位数 15 以下
2 年生	3 セメ終了時 45 以下	3 セメでの修得単位数 15 以下
	4 セメ終了時 60 以下	4 セメでの修得単位数 15 以下
3 年生	5 セメ終了時 75 以下	5 セメでの修得単位数 15 以下
	6 セメ終了時 90 以下	6 セメでの修得単位数 15 以下
4 年生	7 セメ終了時 105 以下	

*この基準のみならず必修科目の単位を修得していない、進級要件を満たせない等も成績不振基準となる場合があります。

経営学科 授業科目一覧表

《記載項目について》

受講形態

必修・・・必ず単位修得しなければならない科目（修得できなければ卒業できません）

自動登録・・・自動的に履修登録を必要とする科目（全員が指定された semester で履修する科目）

配当年次：履修可能な年次を○で表しています。

必修科目について、単位未修得の場合、修得できるまで自動登録されます。

大学共通コア科目一覧

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位数	
			必修	自動登録	選択						
大学共通コア科目	未来展望科目	CF3201	コミュニティの再生			2		○	○	○	4単位以上
		CF3202	生命の歩みと未来			2		○	○	○	
		CF3203	グローバル化と多様性			2		○	○	○	
		CF3204	科学技術の革新			2		○	○	○	
		CF3205	クオリティ・オブ・ライフの探究			2		○	○	○	
		CF2206	未来展望ゼミ			2	○	○			
	公民教養科目	CC1201	日本国憲法			2	○	○	○	○	選択
		CC1202	健康スポーツ理論			2	○	○	○	○	
		CC1203	法学			2	○	○	○	○	
		CC1204	生命倫理学			2	○	○	○	○	
		CC1205	人権の歴史と現代			2	○	○	○	○	
	アカデミック・スキル科目	CA1101	日本語リテラシーⅠ	1			○	○			必修5単位
		CA2102	日本語リテラシーⅡ	1			○	○			
		CA3103	アカデミック・ライティングⅠ		1			○			
		CA4104	アカデミック・ライティングⅡ		1			○			
		CA1105	数的処理Ⅰ	1			○	○			
		CA2106	数的処理Ⅱ	1			○	○			
		CA3107	数的処理Ⅲ		1			○			
		CA4108	数的処理Ⅳ		1			○			
		CA1109	情報リテラシー	1			○	○			
		CA2110	情報プレゼンテーション			1	○	○	○	○	
	英語科目	CE1401	英語Ⅰ	4			○	○			必修16単位
		CE3202	英語Ⅱ	2				○	○		
		CE4203	英語Ⅲ	2				○	○		
		CE5104	英語Ⅳ	1					○	○	
		CE6105	英語Ⅴ	1					○	○	
CE1206		英会話Ⅰ	2			○	○				
CE3107		英会話Ⅱ	1				○	○			
CE4108		英会話Ⅲ	1				○	○			
CE5109		英会話Ⅳ	1					○	○		
CE6110		英会話Ⅴ	1					○	○		
CE3111		上級英語Ⅰ			1		○	○	○		
CE3112		上級英語Ⅱ			1		○	○	○		

必修33単位を含む50単位以上

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位数	
			必修	自動登録	選択						
大学共通コア科目	第二外国語科目	CL1101	ベーシック中国語Ⅰ			1	○	○	○	○	選択
		CL1102	ベーシック中国語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1103	ベーシック韓国語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1104	ベーシック韓国語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1105	ベーシックドイツ語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1106	ベーシックドイツ語Ⅱ			1	○	○	○	○	
		CL1107	ベーシックフランス語Ⅰ			1	○	○	○	○	
		CL1108	ベーシックフランス語Ⅱ			1	○	○	○	○	
	日本語科目 (留学生対象)	CJ1201	日本語Ⅰ	2			○	○			必修6単位
		CJ1202	日本語Ⅱ	2			○	○			
		CJ1203	日本語作文演習	2			○	○	○		
	スタートアップ科目	CU1201	スタートアップゼミⅠ	2			○				必修4単位
		CU2202	スタートアップゼミⅡ	2			○	○			
	キャリア教育科目	CR1201	キャリアデザインⅠ	2			○	○			必修4単位
		CR2202	キャリアデザインⅡ	2			○	○			
		CR5103	キャリア形成実践演習Ⅰ		1				○		
		CR6104	キャリア形成実践演習Ⅱ		1				○		
		CR1105	海外研修ⅠA			1	○	○	○	○	
		CR1106	海外研修ⅠB			1	○	○	○	○	
		CR1207	海外研修ⅡA			2	○	○	○	○	
		CR1208	海外研修ⅡB			2	○	○	○	○	
		CR1409	海外研修ⅢA			4	○	○	○	○	
		CR1410	海外研修ⅢB			4	○	○	○	○	
		CR1111	インターンシップ実習ⅠA			1	○	○	○		
		CR1112	インターンシップ実習ⅠB			1	○	○	○		
		CR1213	インターンシップ実習ⅡA			2	○	○	○		
		CR1214	インターンシップ実習ⅡB			2	○	○	○		
		CR1415	インターンシップ実習ⅢA			4	○	○	○		
		CR1416	インターンシップ実習ⅢB			4	○	○	○		
		CR1117	サービス・ラーニングⅠA			1	○	○	○	○	
		CR1118	サービス・ラーニングⅠB			1	○	○	○	○	
		CR1219	サービス・ラーニングⅡA			2	○	○	○	○	
CR1220		サービス・ラーニングⅡB			2	○	○	○	○		
CR1421	サービス・ラーニングⅢA			4	○	○	○	○			
CR1422	サービス・ラーニングⅢB			4	○	○	○	○			
スポーツ・ライフスキル科目	CS1101	SLSⅠ	1			○	○			必修4単位	
	CS2102	SLSⅡ	1			○	○				
	CS3103	SLSⅢ	1				○	○			
	CS4104	SLSⅣ	1				○	○			

必修33単位を含む50単位以上

経営学科 授業科目一覧表

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	備考	卒業要件 単位数	
			必修	自動登録	選択							
学部共通科目	入門科目	ZB1201	日本経済入門			2	○	○	○	○	必修8単位・選択必修8単位を含む74単位以上(ただし、他学科、他学部などで修得した12単位を上限に含むことができる)、ならびに卒業論文の審査に合格すること 選択必修を8単位以上修得すること 必修8単位以上修得すること	
		ZB1202	経済学入門			2	○	○	○	○		
		ZB1203	経営学入門			2	○	○	○	○		
		ZB1204	経営学総論			2	○	○	○	○		
		ZB1205	ビジネスデータの見方			2	○	○	○	○		
		ZB1206	入門簿記			2	○	○	○	○		
		ZB1207	ビジネスのための数学入門			2	○	○	○	○		
		ZB1208	京都のビジネス			2	○	○	○	○		
		ZB3209	株式投資入門			2		○	○	○		
	キャリア科目	ZC1201	国際航空観光ビジネス論			2	○	○	○	○		
		ZC3202	実践プロジェクトⅠ			2		○				
		ZC3203	実践プロジェクトⅡ			2		○				
		ZC3204	警察・消防特別研究			2		○	○	○		
		ZC5205	公務員特別研究Ⅰ			2			○	○		
		ZC5206	公務員特別研究Ⅱ			2			○	○		
		ZC5207	AIP入門			2			○			AIP
		ZC5208	京の企業Ⅰ			2			○			AIP
		ZC5209	京の企業Ⅱ			2			○			AIP
		ZC5410	企業実務A			4			○			AIP
		ZC5411	企業実務B			4			○			AIP
		ZC5412	企業実務C			4			○			AIP
		ZC5213	企業実務D			2			○			AIP
		ZC5414	現代アジア事情A			4			○			GIP
		ZC5415	現代アジア事情B			4			○			GIP
		ZC5216	現代アジア事情C			2			○			GIP
		ZC5417	海外企業実務A			4			○			GIP
		ZC5418	海外企業実務B			4			○			GIP
		ZC5419	海外企業実務C			4			○			GIP
ZC5220	海外企業実務D			2			○		GIP			
学科専門科目	基礎科目	BF1101	チャレンジショップ入門A			1	○	○	○	○	必修8単位以上修得すること	
		BF1102	チャレンジショップ入門B			1	○	○	○	○		
		BF1203	会計学入門	2			○	○				
		BF1204	商学			2	○	○	○	○		
		BF3205	事業構想概論	2				○	○	○		
		BF3206	女性企業家講座			2		○	○	○		
		BF1207	経営戦略論入門	2			○	○				
		BF3208	経営情報システム論	2				○	○	○		
		BF3209	民法総則			2		○	○	○		
		BF3210	契約・不法行為法			2		○	○	○		
		BF3211	マクロ経済入門			2		○	○	○		
		BF3212	ミクロ経済入門			2		○	○	○		

区分	科目ナンバー	授業科目	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	備考	卒業要件 単位数
			必修	自動登録	選択						
学科専門科目	展開科目	BE3201	経営組織論			2		○	○	○	
		BE3202	経営戦略論			2		○	○	○	
		BE3203	マーケティング論			2		○	○	○	
		BE3204	経営学史			2		○	○	○	
		BE3205	人的資源管理論			2		○	○	○	
		BE3206	広告広報論			2		○	○	○	
		BE3207	国際経営論			2		○	○	○	
		BE5208	情報管理論			2			○	○	
		BE5209	ビジネス法			2			○	○	
		BE5210	物権法			2			○	○	
		BE3211	会社法			2		○	○	○	
		BE3212	債権法			2		○	○	○	
		BE5213	消費者法			2			○	○	
		BE3214	商業簿記Ⅰ			2		○	○	○	
		BE3215	商業簿記Ⅱ			2		○	○	○	
		BE5216	商業簿記ワークショップ			2			○	○	
		BE5217	工業簿記ワークショップ			2			○	○	
		BE3218	財務諸表論			2		○	○	○	
		BE3219	金融入門			2		○	○	○	
		BE5220	金融商品取引法			2			○	○	
		BE3221	管理会計論			2		○	○	○	
		BE3222	財務管理論			2		○	○	○	
		BE3223	経営分析論			2		○	○	○	
		BE3224	原価計算論			2		○	○	○	
		BE3225	税務会計論			2		○	○	○	
		BE5226	税法			2			○	○	
		BE3227	京都商人論			2		○	○	○	
		BE3228	インターネットビジネス論			2		○	○	○	
		BE3230	中小企業経営論			2		○	○	○	
		BE3231	リーダーシップ論			2		○	○	○	
	BE3232	スポーツビジネス論			2		○	○	○		
	BE3233	事業承継論			2		○	○	○		
	BE5234	ベンチャービジネス論			2			○	○		
	BE3235	女性とキャリア形成			2		○	○	○		
BE3238	家族法			2		○	○	○			
BE3239	チャレンジショップA			2		○	○	○			
BE3240	チャレンジショップB			2		○	○	○			
BE5241	チャレンジショップC			2		○	○	○			
BE5242	チャレンジショップD			2		○	○	○			
演習科目	BS5201	専門ゼミⅠ		2				○			
	BS6202	専門ゼミⅡ		2				○			
	BS7203	専門ゼミⅢ		2					○		
	BS8204	専門ゼミⅣ		2					○		

必修8単位・選択必修8単位を含む74単位以上(ただし、他学科、他学部などで修得した12単位を上限に含むことができる)、ならびに卒業論文の審査に合格すること

《外国人留学生の方へ》

- ① 外国人留学生は、下記の所定の科目を履修し、単位を修得する必要があります（大学共通コア科目の日本語リテラシーⅠ・Ⅱおよび数的処理Ⅰ・Ⅱを履修する必要はありません）。
- ② 目的は外国人留学生の日本語技能を引き上げ、卒業論文の作成を支援することにあります。

※本プログラム科目の履修について不明な点がある場合は、教務センターに問い合わせてください。

☆外国人留学生対象日本語プログラム科目の概要、履修対象者、および履修要件

科目名	単位数	科目の概要	履修対象者および履修要件
日本語Ⅰ (必修)	2	やや高度な日本語読解・聴解技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	①外国人留学生全員 ②3年生進級時までに単位を修得してください。
日本語Ⅱ (必修)	2	やや高度な日本語文法・作文・会話・発表技能および大学での学修に必要な数的処理能力を修得します。	同上
日本語作文演習 (必修)	2	日本語レポートを作成できる論理的な文章の書き方を修得します。	①「日本語Ⅰ」および「日本語Ⅱ」単位修得者 ②4年生進級時までに単位を修得してください。

経営学科 履修モデル

コースごとの履修モデルを紹介します。これらのモデルを参考にして履修計画をたててください。

★必修科目 ●自動登録科目 ○当該コースで特に推奨される科目

《経営戦略コース》

セメスター		1	2	3	4	5	6	7	8
大学共通科 コア科目	未来展望科目			科学技術の革新②	グローバルイノベーションと多様性②				
	公民教養科目	日本国憲法②	人権の歴史と現代② 法学②						
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ① ★数的処理Ⅰ① ★情報リテラシー①	★日本語リテラシーⅡ① ★数的処理Ⅱ① 情報プレゼンテーション①	●アカデミック・ライティングⅠ① ●数的処理Ⅲ①	●アカデミック・ライティングⅡ① ●数的処理Ⅳ①				
	英語科目	★英語Ⅰ④(②+②) ★英会話Ⅰ②(①+①)		★英語Ⅱ② ★英会話Ⅱ①	★英語Ⅲ② ★英会話Ⅲ①	★英語Ⅳ① ★英会話Ⅳ①	★英語Ⅴ① ★英会話Ⅴ①		
	第二外国語科目			第二外国語科目Ⅰ①	第二外国語科目Ⅱ①				
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②						
	キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②				●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①	
	SLS	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①				
学部共通科目	入門科目	日本経済入門② 経営学総論② 経済学入門②	経営学入門② 京都のビジネス② 入門簿記②						
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②				
学科専門科目	基礎科目	★会計学入門② ★経営戦略論入門② チャレンジショップ入門A①	商学② チャレンジショップ入門B①	★経営情報システム論② ★事業構想概論②	契約・不法行為法②		女性企業家講座②		
	展開科目			経営組織論② マーケティング論② リーダーシップ論② チャレンジショップA②	経営戦略論② 人的資源管理論② 中小企業経営論② 経営学史② チャレンジショップB②	会社法② 商業簿記Ⅰ② 広告広報論② 女性とキャリア形成②	財務諸表論② 商業簿記Ⅱ② 国際経営論② 情報管理論②	経営分析論②	
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②	●専門ゼミⅣ②

《会計コース》

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
大学共通科 コア科目	未来展望科目			コミュニティの再生②	グローバルゼーションと多様性②	科学技術の革新②		
	公民教養科目	日本国憲法②	法学②					
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ① ★数的処理Ⅰ① ★情報リテラシー①	★日本語リテラシーⅡ① ★数的処理Ⅱ①	●アカデミック・ライティングⅠ① ●数的処理Ⅲ①	●アカデミック・ライティングⅡ① ●数的処理Ⅳ①			
	英語科目	★英語Ⅰ④(②+②) ★英会話Ⅰ②(①+①)		★英語Ⅱ② ★英会話Ⅱ①	★英語Ⅲ② ★英会話Ⅲ①	★英語Ⅳ① ★英会話Ⅳ①	★英語Ⅴ① ★英会話Ⅴ①	
	第二外国語科目	第二外国語科目Ⅰ①	第二外国語科目Ⅱ①					
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②					
	キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②			●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①	
SLS	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①				
学部共通科目	入門科目	日本経済入門② ビジネスのための数学入門② 経営学総論②	経営学入門② 入門簿記② ビジネスデータの見方② 経済学入門②					
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②			
学科専門科目	基礎科目	★会計学入門② ★経営戦略論入門②	商学②	★経営情報システム論② ★事業構想概論② 株式投資入門②				
	展開科目			商業簿記Ⅰ② 金融入門② 会社法② 経営組織論②	商業簿記Ⅱ② 財務管理論② 原価計算論② 管理会計論② 財務諸表論② 税務会計論②	商業簿記ワークショップ② 工業簿記ワークショップ② 金融商品取引法② 税法② ビジネス法② 経営分析論②	債権法② 物権法②	
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②

《起業・事業承継コース》

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
大学共通科 コア科目	未来展望科目			科学技術の革新②	グローバリゼーションと多様性②	生命の歩みと未来②		
	公民教養科目	健康スポーツ理論②	法学②					
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ① ★数的処理Ⅰ① ★情報リテラシー①	★日本語リテラシーⅡ① ★数的処理Ⅱ① 情報プレゼンテーション①	●アカデミック・ライティングⅠ① ●数的処理Ⅲ①	●アカデミック・ライティングⅡ① ●数的処理Ⅳ①			
	英語科目	★英語Ⅰ④(②+②) ★英会話Ⅰ②(①+①)		★英語Ⅱ② ★英会話Ⅱ①	★英語Ⅲ② ★英会話Ⅲ①	★英語Ⅳ① ★英会話Ⅳ①	★英語Ⅴ① ★英会話Ⅴ①	
	第二外国語科目					第二外国語科目Ⅰ①	第二外国語科目Ⅱ①	
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②					
	キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②			●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①	
SLS	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①				
学部共通科目	入門科目	日本経済入門② 経営学総論②	経営学入門② 京都のビジネス② 入門簿記② 経済学入門②					
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ②			
学科専門科目	基礎科目	★会計学入門② ★経営戦略論入門② 商学② チャレンジショップ入門A①	経営学入門② チャレンジショップ入門B①	★経営情報システム論② ★事業構想概論② ★女性企業家講座②	契約・不法行為法②			
	展開科目			女性とキャリア形成② スポーツビジネス論② リーダーシップ論② チャレンジショップA②	京都商人論② 中小企業経営論② 事業承継論② 経営戦略論② インターネットビジネス論② チャレンジショップB②	ベンチャービジネス論② 税法② 会社法② マーケティング論② チャレンジショップC②	消費者法② 財務諸表論② チャレンジショップD②	
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②

《公務員コース》

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
大学共通科 コア科目	未来展望科目			コミュニティの再生②	グローバルイゼーションと多様性②			
	公民教養科目	○日本国憲法② ○法学②	人権の歴史と現代② 生命倫理学②					
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシーⅠ① ★数的処理Ⅰ① ★情報リテラシー①	★日本語リテラシーⅡ① ★数的処理Ⅱ① 情報プレゼンテーション①	●アカデミック・ライティングⅠ① ●数的処理Ⅲ①	●アカデミック・ライティングⅡ① ●数的処理Ⅳ①			
	英語科目	★英語Ⅰ④(②+②) ★英会話Ⅰ②(①+①)		★英語Ⅱ② ★英会話Ⅱ①	★英語Ⅲ② ★英会話Ⅲ①	★英語Ⅳ① ★英会話Ⅳ①	★英語Ⅴ① ★英会話Ⅴ①	
	第二外国語科目							
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミⅠ②	★スタートアップゼミⅡ②					
	キャリア教育科目	★キャリアデザインⅠ②	★キャリアデザインⅡ②			●キャリア形成実践演習Ⅰ①	●キャリア形成実践演習Ⅱ①	
	SLS	★SLSⅠ①	★SLSⅡ①	★SLSⅢ①	★SLSⅣ①			
学部共通科目	入門科目	日本経済入門②	ビジネスデータの 見方② 入門簿記② 京都のビジネス② 経済学入門②	ビジネスのための 数学入門②				
	キャリア科目			実践プロジェクトⅠ②	実践プロジェクトⅡ② ○警察・消防特別研究②	○公務員特別研究Ⅰ②	○公務員特別研究Ⅱ②	
学科専門科目	基礎科目	★会計学入門② ★経営戦略論入門②		★経営情報システム論② ★事業構想概論② ○民法総則② ミクロ経済学入門② マクロ経済学入門②	○契約・不法行為法②			
	展開科目			○(E)刑法②	○家族法② 債権法② ○(E)刑事訴訟法② ○(E)行政法② ○(E)白書で学ぶ現代日本②	物権法② ビジネス法② 税法② 会社法② 金融商品取引法② ○(E)刑事政策② (E)社会政策入門②	消費者法②	
	演習科目					●専門ゼミⅠ②	●専門ゼミⅡ②	●専門ゼミⅢ②

≪航空観光コース≫

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8	
大学共通科 コア科目	未来展望科目		未来展望ゼミ②	科学技術の革新②	グローバルゼーションと多様性② クオリティ・オブ・ライフの探究②				
	公民教養科目								
	アカデミック・スキル科目	★日本語リテラシー I ① ★数的処理 I ① ★情報リテラシー①	★日本語リテラシー II ① ★数的処理 II ① 情報プレゼンテーション①	●アカデミック・ライティング I ① ●数的処理 III ①	●アカデミック・ライティング II ① ●数的処理 IV ①				
	英語科目	★英語 I ④ (②+②) ★英会話 I ② (①+①)		★英語 II ② ★英会話 II ① 上級英語 I ①	★英語 III ② ★英会話 III ① 上級英語 II ①	★英語 IV ① ★英会話 IV ①	★英語 V ① ★英会話 V ①		
	第二外国語科目			第二外国語 I ①	第二外国語 II ①				
	スタートアップ科目	★スタートアップゼミ I ②	★スタートアップゼミ II ②						
	キャリア教育科目	★キャリアデザイン I ②	★キャリアデザイン II ②			●キャリア形成実践演習 I ①	●キャリア形成実践演習 II ①		
SLS	★SLS I ①	★SLS II ①	★SLS III ①	★SLS IV ①					
学部共通科目	入門科目	経済学入門② 経営学総論② ○国際航空観光ビジネス論② 日本経済入門②	経営学入門② ビジネスデータの見方② 入門簿記② 京都のビジネス②	ビジネスのための数学入門②					
	キャリア科目			実践プロジェクト I ②	実践プロジェクト II ②				
学科専門科目	基礎科目	★会計学入門② ★経営戦略論入門②	商学②	★経営情報システム論② ★事業構想概論② ミクロ経済学入門② マクロ経済学入門②					
	展開科目			○女性とキャリア形成②	○国際経営論② 人的資源管理論② 経営戦略論② 財務諸表論② (E)国際経済入門②	情報管理論② 広告広報論② マーケティング論② 経営組織論② リーダーシップ論② ○(E)公共経済学② (E)国際法②	(E)国際経済法② (E)国際経済学②		
	演習科目					●専門ゼミ I ②	●専門ゼミ II ②	●専門ゼミ III ②	●専門ゼミ IV ②

第3章 経済学科、経営学科共通

公務員コース

このコースでは、公務員を目指す学生のために、継続的に採用試験に必要な支援を行っていきます。

[コース内容]

これらプログラムに参加する学生は、課外講座の『公務員講座』を履修するとともに、

◆公務員採用試験に関連する科目の履修

採用試験の勉強（数的処理、法律科目）に直結する授業「警察・消防特別研究」「公務員特別研究Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修します。また、公務員採用試験科目の中で、独学での理解は難しい「経済、政治、法律分野」についての正課の授業の履修については、履修推奨科目としていますが（詳細は履修モデルを参照してください）。

◆公務員に関連するイベント、ガイダンス、ゼミなどへの参加

現役4年次合格者との座談会、試験までに必要なことのガイダンス、公務員に関連するゼミに参加して、公務員の仕事や採用試験のことを知ることができます。

◆担当教員が総合的に支援

プログラム担当教員が定期的に個人面談を行い、採用試験に向けた不安を解消し、総合的に支援します。

◀履修推奨科目▶

このコースでは、採用試験および採用後の仕事の現場で役立つ科目として、以下科目については履修推奨科目としていますが、この中で、「警察・消防特別研究」「公務員特別研究Ⅰ」、「公務員特別研究Ⅱ」については、プログラム参加者は必ず履修してください。

授業での履修推奨科目

◀大学共通コア科目▶ 日本国憲法、法学

◀学部共通科目▶ 経済学入門、日本経済入門、ビジネスのための数学入門、**警察・消防特別研究、公務員特別研究Ⅰ、公務員特別研究Ⅱ**

◀学科専門科目▶ マクロ経済入門、ミクロ経済入門

◀学科専門科目（経済学科）※▶ 社会政策入門、白書で学ぶ現代日本、行政法、刑法、刑事訴訟法、刑事政策

◀学科専門科目（経営学科）※▶ 民法総則、契約・不法行為法

※ 経済学科または経営学科のどちらかで開講されている科目です。本プログラムへの登録者は、他学科受講として、これらの科目を履修することができます。単位認定は「任意科目」分野での認定となります。

航空観光コース

経済経営学部のゼミやこのコースの特別授業をすべて受講する正課生以外に、一部の授業やセミナーなどに参加できる準航空観光コース生としての登録も可能です。詳しくは本学ホームページをご覧ください。

[コース内容]

◆ゼミ形式の演習授業

2年次以降は、ゼミ形式の演習授業において、サービス業に視野を狭めることなく、広く経済経営の基本的メカニズムを学びます。

◆国際航空観光ビジネスと航空政策の講義

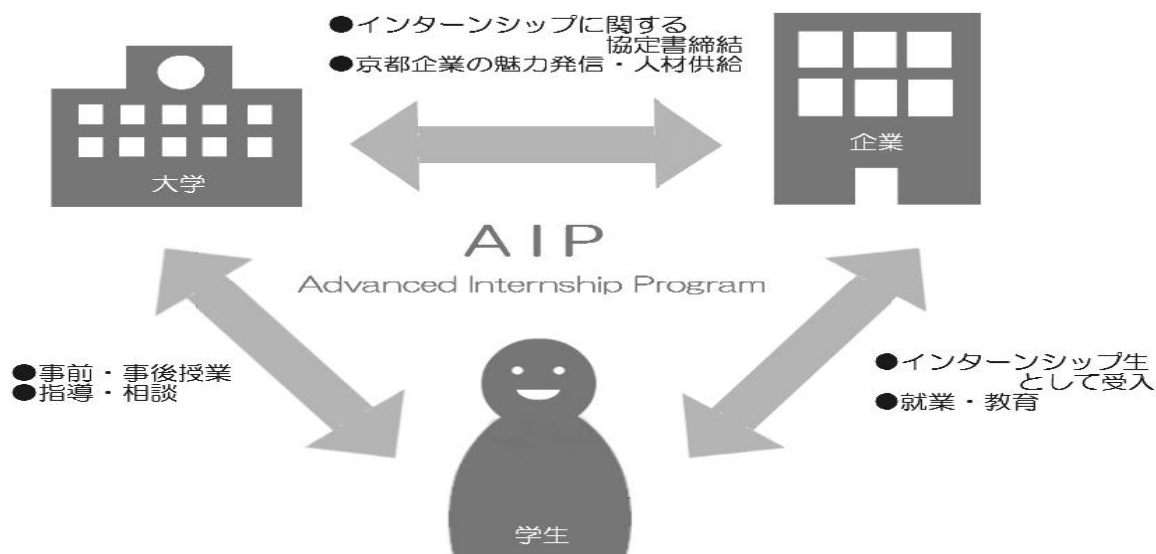
1年次ではANAの元社員を講師とする航空観光の基礎知識の講義を、3年次以上では航空経済の第一人者による航空政策の講義を受講できる可能性があります。

◆特別なセミナーとインターンシップ

航空会社現役・OB社員による業界研究セミナー、就職活動のための各種講座（マナー講座、模擬面接、自己PR向上セミナー）、見学会などを年3回実施します。主として3年次生向けに、面接対策やエントリーシート・履歴書対策等の採用試験突破に必要なスキル・マナーを身に付けるための業務体験（インターンシップ等）をエアラインや空港で実施します。

アドバンスト・インターンシップ・プログラム【AIP】

Advanced Internship Program



アドバンスト・インターンシップ・プログラム【AIP】は、3年次春学期に実施される長期インターンシッププログラムです。大学・企業・学生の三者が協同してプログラムを運営しています。「働く」ということや「社会の中で活躍する」ということの意味を、約3ヶ月にわたる実務経験（企業留学での学び）を通じて身をもって深く学びます。これらの経験を大学での学びと繋げることで、大学での学びをより意味のあるものにすることができます。

《期待される学修の成果》

- ① 企業を見る眼や「働く」ことに対する深い理解を得ることができる。
- ② 職業社会で求められる能力を高めることができる。
- ③ 実務経験を通じて、各専門分野における理論と現実とのギャップを体験することができる。
- ④ インターンシップをやり遂げた達成感や自信を得ることができる。
- ⑤ プログラムでの経験を踏まえて、大学での学びに対するモチベーションを高めることができる。

プログラムを修了するためには、以下の科目を全て履修する必要があります。

【事前学習】科目名：「AIP入門②」、「京の企業Ⅰ②」

AIPを意味あるものにするために、事前学習を通じて企業実務に向けた準備を行います。インターンシップにおける目標設定やコミュニケーショントレーニング、ビジネスマナーについて学ぶほか、京都を中心とした企業について理解することを目的としています。

【企業実習】科目名：「企業実務A④」、「企業実務B④」、「企業実務C④」または「企業実務D②」

実際に新入社員が行う仕事を企業で体験します。これらの経験を通じて理想と現実のギャップを理解し、社会で働くことの意味について深く学びます。企業および担当教員と定期的に面談を行い、学生の仕事状況を確認しながら、メンタルケアやサポートを行います。

【事後学習】科目名：「京の企業Ⅱ②」

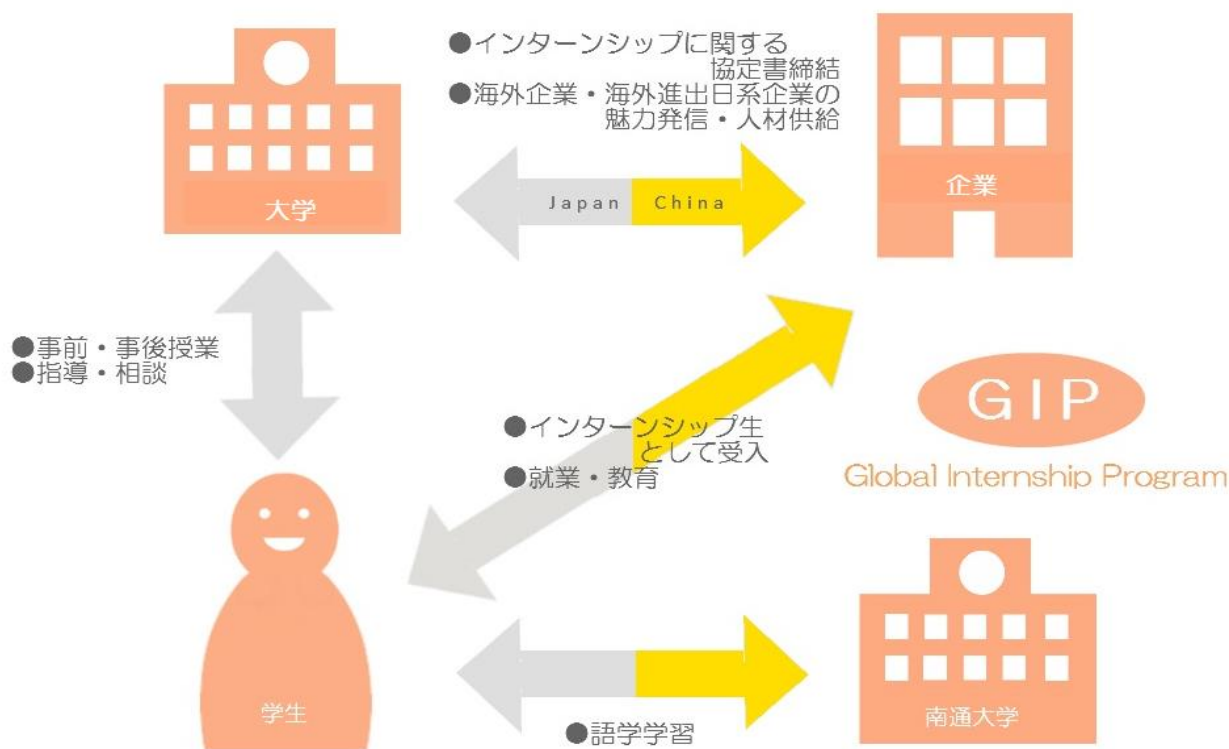
企業実務を通じて学んだことを振り返り、「働く」ということや「社会の中で活躍する」ということの意味を改めて深く理解することを目的としています。本プログラムの総決算を行い、今後の大学生活をより良いものにするための授業を展開します。

2020年度 受入予定企業（順不同）

株式会社クロスエフェクト、株式会社サイネックス、株式会社エムティー、株式会社笹屋伊織、株式会社山岡白竹堂

グローバル・インターンシップ・プログラム【G I P】

Global Internship Program



グローバル・インターンシップ・プログラム【G I P】は、学生が在学中に海外進出企業に企業留学し、G20時代のグローバル化した経済活動を体感し、現実の海外ビジネスの最前線を学ぶための教育プログラムです。

3年次春学期に、中国江蘇省の南通大学での語学研修を通じて中国語での基本的なコミュニケーション能力と異文化理解を高めた後、上海市もしくはその近郊の日本企業・団体に企業留学をします。

このプログラムを通じて、学生はアジアのビジネスシーンを体験し、海外で働くことへの自信をつけることができます。

《期待される学修の成果》

- ① 語学力を含めた総合的なコミュニケーション力を高めることができる。
- ② 異文化と自国文化についての理解を深め、国際感覚を身につけることができる。
- ③ 専門分野における理論と現実とのギャップを体験することができる。
- ④ ビジネスの現場で求められる能力を高め、企業を見る眼を養うことができる。
- ⑤ 達成感と自信を得るとともに、大学での学びに対するモチベーションを高めることができる。

《授業の内容》

【事前学習】科目名：「現代アジア事情A④」、「現代アジア事情B④」、「現代アジア事情C②」

中国江蘇省にある南通大学で語学研修を行います。ここでは、中国語での基本的なコミュニケーション能力や異文化理解の向上を目指します。

【企業実習】科目名：「海外企業実務A④」、「海外企業実務B④」、「海外企業実務C④」または「海外企業実務D②」

中国企業ならびに中国に進出した日系企業等に企業留学することによって、ビジネスの最前線を学びつつ、G20時代のグローバル化経済を体感することができます。修学意欲や、知的好奇心を深め、達成感や自信を得るだけでなく、経済を見る眼を磨くことができるようになります。

【事後学習】

実習を振り返り、気づいたことや身につけておいた方がよい知識や技能など、今後の大学生活での学びや成長に結び付けられるよう、プレゼンテーションやディスカッションを交えながら授業を展開します。

2020年度 受入予定企業（順不同）

株式会社島津製作所、上海邁伊茲咨询有限公司（マイツグループ）、FNA（ファクトリーネットワークチャイナ）

第4章 大学共通

インターンシップ・プログラム

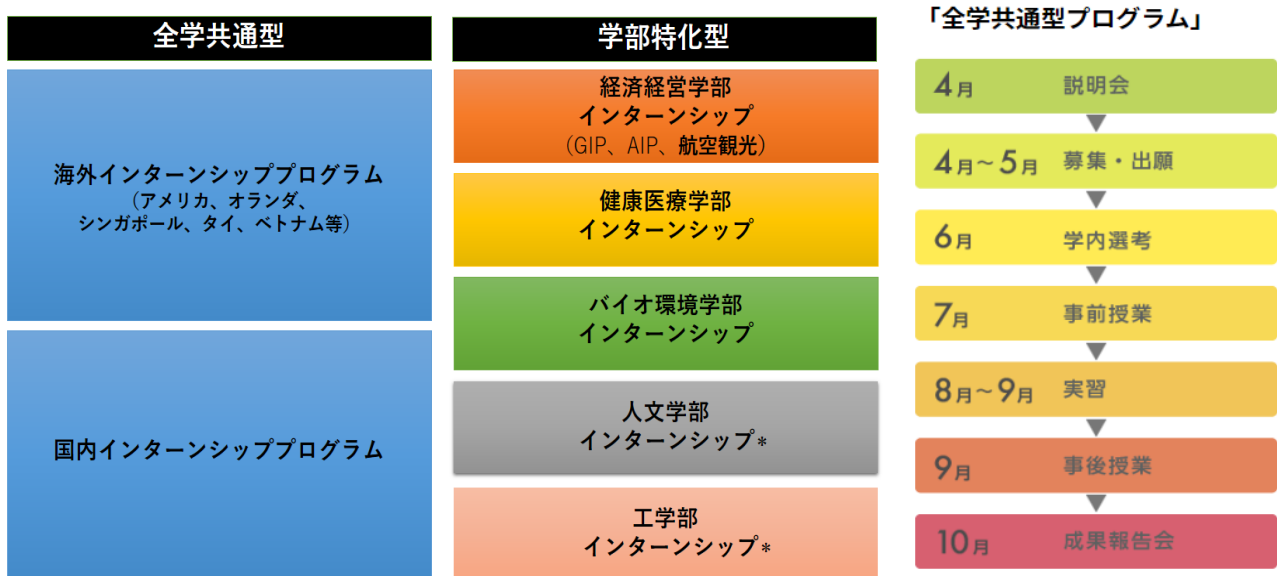
目的

本学のインターンシップでは、世界で活躍する人材を目指して、様々な海外・国内プログラムを提供しています。実務経験を通じて、どの様な人が社会から必要とされているのか、又、自分には何が必要で、何をすべきなのかという気づきを得る事で、大学での学びを深め、将来に活かすことを目的としています。

本学主催インターンシップ と 年間スケジュール

インターンシップと一言でいっても、プログラムによって目的（教育、就職等）、期間（1day、2週間、1カ月～等）、主催（本学、外部機関等）、単位認定等が異なります。どのインターンシップに参加するかは、情報収集に努めながら、自分自身で決定する事が大切です。

本学では、大きく分けて2種類のプログラムを提供しています。1つ目は、全学部全学科を対象とした「全学共通型」。2つ目は、専門性を深める「学部特化型」です。各プログラムの詳細は本学ホームページや学内広報（先端ナビ、ポスター、メール等）でお知らせします。例年4月中旬～5月頃に募集・出願となりますので、4月の説明会（インターンシップ総合ガイダンス）にて確認を行ってください。



- ※ 人文学部、工学部の学部特化型プログラムは企画中です。
- ※ 原則おおよそ2週間以上のインターンシップを「教育」に区分します。
- ※ 外部機関主催（大学コンソーシアム京都、省庁、企業等）プログラムもあります。これについては単位認定対象外となり、各人で出願から諸手続きまで行うことになります。学研災付帯賠償責任保険の適用（*注1）、参加許可証明書等が必要な場合はインターンシップセンターへ申し出て下さい。（*注1）事前に登録手続きがない場合は適用外。

インターンシップセンター

京都太秦キャンパス 西館 1階 インターンシップセンター

《窓口取扱時間》 月～金 8:30～17:00（大学が定める休業日を除く。長期休業期間中は時間変更有。）

TEL: 075-406-9260 E-mail: intern@kuas.ac.jp

大学コンソーシアム京都 単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、約50の加盟大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が加盟校の講義を履修しています。

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

オリエンテーション期間中に、本学「先端なび」に出願方法についての案内を掲示します。受講希望者は、期日までに、所定の出願手続きを行ってください。

(2) 出願方法

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「e京都ラーニング」上でのオンライン出願となります。

まず、アカウントを作成してください。次に、受講希望科目の出願登録を行って、最後に、所定期日までに「履修登録出願票」を教務センターに提出します。

単位互換科目の登録・履修制限は、当該学年で3科目以内です。本学の履修登録制限単位数には含みません。

(3) 各科目の詳細

大学コンソーシアム京都ポータルシステム「e京都ラーニング」のWEBサイトで検索・閲覧してください。

2. 履修許可および履修手続き

大学コンソーシアム京都単位互換科目は、全科目定員制です。科目開設大学で書類選考等を実施し、履修可否は、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。

履修許可を受けた場合、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。

3. 科目開設大学からの諸連絡

授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等については、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。また、大学コンソーシアム京都のWEBサイトにて、各自で確認してください。

4. 単位認定について（健康医療学部看護学科・言語聴覚学科除く）

履修登録が正しくできており、一定の要件を充たした場合は、単位が認定されます。受講した科目名に関わらず、本学の成績表には「単位認定（単位互換）」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

卒業年次の場合、科目開設大学からの成績通知が、本学の卒業判定に間に合わない場合があります。単位互換科目の単位認定の可否が、卒業判定に影響するような受講は避けてください。



5. 「大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム」について

例年5月頃に、一般の単位互換科目履修登録とは別に登録申請を受け付けます（年1回）。受講が許可され、一定の要件を充たした場合「インターンシップ実習」という科目名で単位認定されます。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。詳細は、インターンシップセンターに照会してください。

国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）

1. 趣旨及び留学先

本学と札幌学院大学及び沖縄国際大学との間で、教育研究の発展に資するため、大学間で単位互換に関する協定を結んでいます。これによりお互いに学生を交換し、交流及び学修ができるようになっています。

札幌学院大学	京都先端科学大学	沖縄国際大学	
<p>法学部 法律学科 経済学部 経済学科 経営学部 会計ファイナンス学科 経営学科 人文学部 人間科学科 英語英米文学科 こども発達学科 心理学部 臨床心理学科</p>	<p>経済経営学部 経済学科 経営学科 人文学部 心理学科 歴史文化学科 バイオ環境学部 バイオIT学科 バイオ環境デザイン学科 食農学科 健康医療学部 看護学科 言語聴覚学科 健康スポーツ学科 工学部 機械電気システム工学科</p>	<p>法学部 法律学科 地域行政学科 経済学部 経済学科 地域環境政策学科 産業情報学部 企業システム学科 産業情報学科 総合文化学部 人間福祉学科 日本文化学科 社会文化学科 英米言語文化学科</p>	
			
包括協定		包括協定	

2. 学修・単位

履修指導：留学先の大学のカリキュラムに基づいて、履修指導を受けます。

留学先で修得した単位：学則に基づき、**60単位まで要卒単位として認定されます。**

3. 学籍

国内留学期間：「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

留学により卒業の時期が延びることはありません。

手続：留学が決定した後、留学願を本学教務センターに提出します。

留学が終了した後、留学終了届を本学教務センターに提出します。

4. 経費

留学中の学費：本学に所定の学費を納めます。留学先に納める必要はありません。

その他の実習費等は、自己負担となります。

5. 資格及び決定手順

資格：原則として、先方で留学する学年が2年次以上で、留学先での目的が明確かつ成績優秀な者。

決定手順：本学において希望する学生を選考のうえ、学長が推薦します。

相手先で受け入れについて審議された後決定します。（2月下旬予定）

6. 出願手続

希望する留学先を決め、願書及び履歴書等を本学教務センターへ **2020年11月30(月)** までに提出します。

提出必要書類等

- ① 願書 (受入大学の様式。教務センターで配布)
- ② 履歴書・自己紹介書 (受入大学の様式。教務センターで配布)
- ③ 健康診断証明書 (本学自動発行機から：手数料 200 円)
- ④ 写真 (学生証用 4×3 3 cm)

7. 留学期間

春学期始めから1年または春・秋学期始めから半年とします。

札幌学院大学は、完全なセメスター制ではありませんので、半年での科目履修は限定されます。

8. 留学先での身分及び生活等

札幌学院大学では特別科目等履修生、沖縄国際大学では特別聴講学生の身分になります。

留学先では、学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

留学期間中の滞在先が決まっていない場合は、留学先の大学と相談しながら下宿先を探します。

9. その他

学則（本学および留学先の大学）に違反するとき、又は修学状況が悪いときは、資格を取り消すことがあります。

2019年度体験記【札幌学院大学】経済経営学部 経営学科 水野 晴香

私が国内留学をしようと思ったのは、なんとなく日々を消費する生活から抜け出したいと思ったからです。大学生を2年もやっていると、学校やアルバイトなど、良くも悪くも慣れが出てきていました。当時のゼミの先生にも学校の勉強以外に何か挑戦してみてもどうかと言われていて、海外留学は少しハードルが高いし、元々1年生の時から気になっていた国内留学に決めました。

意志が強い方ではないので一気に環境を変えてみることによって得られたことは沢山ありました。まずは学習面ですが、札幌学院大学は学内に学習設備が充実していたので、講義がなくても学校で勉強をしている学生も多く見られ、自分も頑張ろうと思える刺激を受けました。講義も北海道特有の北海道史やアイヌについてなど、京都にいては受けられない講義は特に興味深かったです。

ゼミにも所属し、北海道の信用金庫について学びました。ゼミの先生は私のことをよく気にかけて下さって、こちらでの生活だけでなく今後のことについての相談にも親身に乘ってくださいました。また、本来は後期にあるフィールドワークの事前調査にも同行させていただき、そこでは信用金庫の方を中心に、信用金庫に関わりのある方に直接お話を伺ったことで、これからの就活の意欲と金融業界への興味が沸いてとても刺激になりました。

国内留学を通じて本当に沢山のことを感じ、学び、人としての成長もできました。半年という短い期間でしたがとても濃く、私にとってなくてはならなかった時間で、自分の人生が豊かになったと思います。素敵な制度を見逃さないで良かったです。

2019年度体験記【沖縄国際大学】人文学部 歴史文化学科 中村 陽

今回私が国内留学に行こうと思ったきっかけは、アルバイト中のお客様とのやりとりでした。お客様が沖縄に何回か行ったことがあるという話から、沖縄の環境や問題などを次々と私に質問される中、お客様に納得のいく答えをあまり返せず、改めて私は私自身が生まれ育ってきた沖縄について知らないことを痛感しました。そこで、その頃沖縄国際大学から国内留学で来ていた子と友達になったのもあり、国内留学について興味がわき、就職は本土ですから沖縄のことについて勉強できるのは今しかないと思い、国内留学に行くことを決意しました。

最初は知らない大学、たくさんの知らない人の中でどうやっていこうか悩みましたが、ここの大学の特色でしようか、多くの授業がただ先生の講義を受けるだけでなく、グループワークやディスカッションなどを取り入れていて、必然的に他の学生とコミュニケーションを取れる機会が多くあったのはとても嬉しかったです。その中で私は1年生の女子学生と大阪から勉強しに来ていた特別聴講生の50代くらいの男性と仲良くなり、沖縄の基地問題や子どもの貧困についてよく話をしました。そこからその男性の知り合いに保育園の園長先生をしている人がいるということで、3人でその保育園にフィールドワークにも行きました。そこで聞いた話は私が今まで知らなかった世界で、沖縄の子どもの貧困はここまで深刻なんだと胸が痛みました。まだまだ知らないことだらけではありますが、沖縄を知りたいという気持ちを実際の行動に移したことで、貴重な経験をすることができました。今回の留学でフィールドワーク、グループディスカッションを通して発信することの大切さや、相手の考えや思い、やり方を知ることの大切さを知りました。改めて自分の知らない世界に飛び込むのは面白いなと感じました。

海外留学・語学研修

相談窓口 国際オフィスセンター

本学では「全員海外体験」を目指し、海外で学修するさまざまなプログラムを用意しています。海外提携校との交換留学プログラム、海外での短期研修など多種多様です。また、事前学習などのプログラムも設け、海外での学習の準備が整えられるようしています。各プログラムの詳細は国際オフィスセンターで確認してください。

1. 交換留学プログラム

本学では、海外の大学と協定を結び、交換留学プログラムを実施しています。

留学とは、夏期休暇や春期休暇などを利用して参加する海外研修等とは異なり、約半年あるいは約1年間、海外の大学に在籍し、留学先大学の学生と同じ授業を受ける学生になることです。滞りも長期間になりますので、留学をやりあるものにするためには、強い意欲と目的意識が必要となります。

交換留学の出願資格は以下のとおりです。応募時期は春と秋の2回あります。詳細は、募集時期が近づいたら、「先端ナビ」および国際オフィスセンター掲示板等でお知らせします。

- 留学出発時点で1年間以上本学に在学していること。
- 出願時のGPAが2.0以上あること。
- 1セメスター平均18単位以上修得していること。
- 交換留学先の大学が求める条件を満たしていること。

留学先で修得した単位は、他大学等で修得した単位と合計して60単位を限度として卒業要件単位に認定することができます。

国・地域名	交流協定締結校名
アメリカ合衆国	オクラホマ州立大学
	ノースセントラル大学
大韓民国	徳成（トクソン）女子大学
	世明（セミョン）大学
台湾	国立高雄餐旅大学
	開南大学
	明道大学
タイ王国	カセサート大学
	ランシット大学
モンゴル国	イフ・モンゴル大学
	イフ・ザスグ大学
中華人民共和国	南通大学
インドネシア共和国	ボゴール農業大学

2. 海外研修プログラム

各海外研修の詳細は、国際オフィスセンターにお問い合わせください。

主催	研修先・プログラム名	単位数
京都先端科学大学	イギリス バース市「英国バース海外語学研修」	4単位
	アメリカ合衆国 ハワイ「ハワイ海外短期研修」	1単位
	タイ バンコク「タイ企業視察・語学研修」（経済経営学部生対象）	2単位
	中国 上海「海外健康スポーツ文化研修」（健康医療学部健康スポーツ学科生対象）	1単位
	中国 西安「西安・敦煌フィールドワーク研修」	1単位
台湾・開南大学（提携校）	台湾 開南大学「夏期語学文化研修」	2単位
韓国・トクソン女子大学（提携校）	韓国 トクソン女子大学「ディスカバー・コリア」	2単位
大学コンソーシアム京都	オーストラリア メルボルン「短期語学留学」 *4月に履修登録が必要です	4単位

《海外研修の単位修得について》

海外研修は、成績評価の対象となります。

科目名称	単位数	成績評価方法	対象
海外研修ⅠA	1単位	外国の大学等で語学研修等を1週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	①本学または本学と提携の大学が行う海外研修 ②個人で参加する海外研修(*)
海外研修ⅠB	1単位	海外研修ⅠAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を1週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅡA	2単位	外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅡB	2単位	海外研修ⅡAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート（2000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅢA	4単位	外国の大学等で語学研修等を1か月間程度行い、かつ指定されたレポート（4000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅢB	4単位	海外研修ⅢAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を1か月間程度行い、かつ指定されたレポート（4000字程度）を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	

*個人で参加する海外研修については、事前に教務センターに申請を行い、許可を得られた場合において、所定の要件を充たせば成績評価の対象となります。

- 海外の大学等の同一機関で同一レベルの語学研修等を重複して行った場合、単位認定の対象になるのは一方のみです。
- 履修制限単位に含みません。

(1) 単位認定の申請方法

- 「海外研修」の単位認定を希望する場合は、事前指導を受けてから研修先を決定すること。
- 海外研修を修了した者は、修了証明書の写し及び指定されたレポートを担当者に提出すること。
- 履修登録及び単位認定は帰国後当該年度に行う。ただし、1月以降の帰国者についての履修登録及び単位認定は翌年度に行う。
- 前各項にかかわらず、本学が行う「海外研修」に関する指導は別途行う。

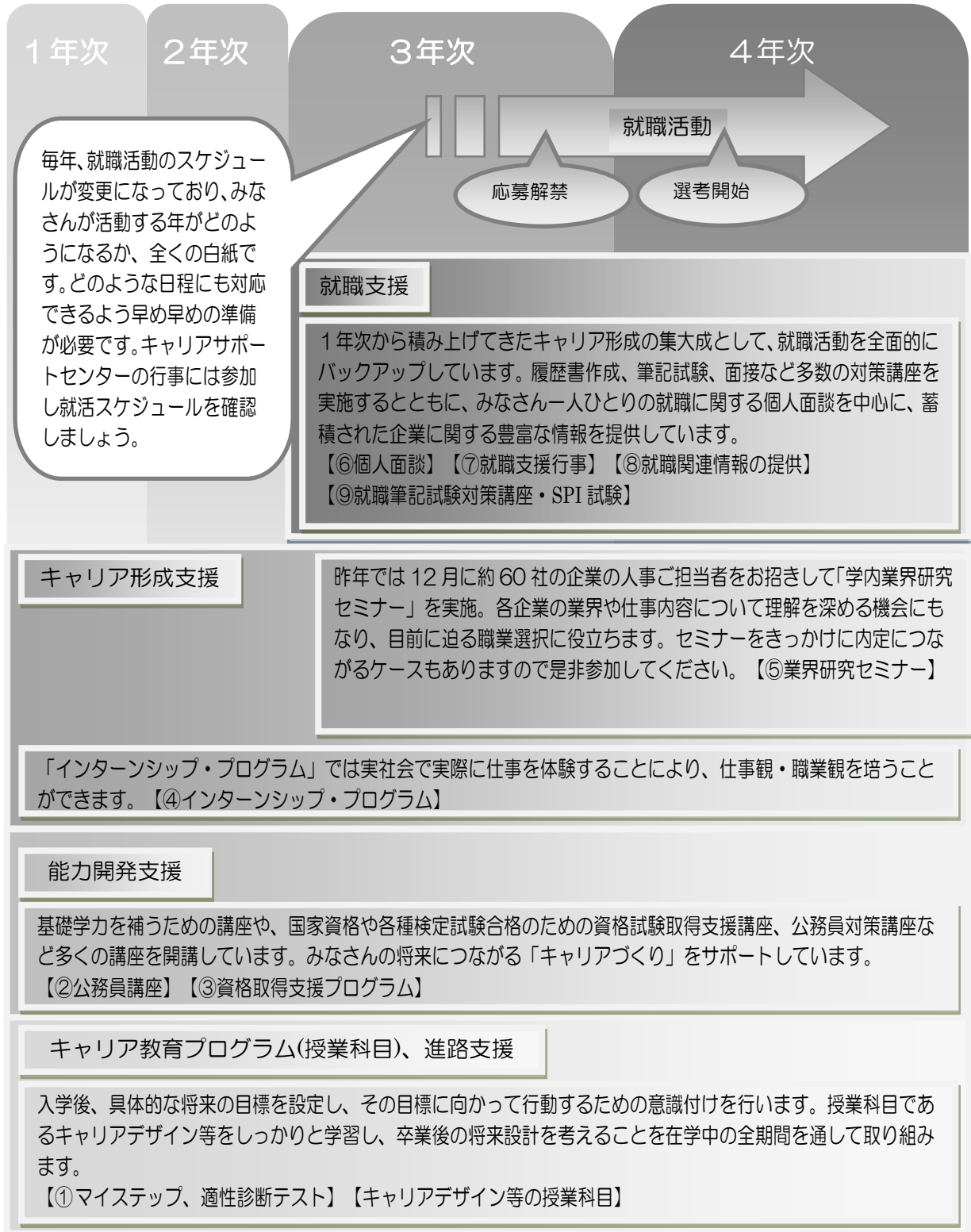
(2) 海外研修期間中の学籍

「留学」にはなりませんが、在学期間に算入されます。

キャリア・就職支援体制

本学では、入学から卒業までの4年間をトータルサポートプログラムとして、スケジュールリングしています。未知なる可能性を秘めているみなさんが、自身の目標や夢を達成していくために、早い時期から「なりたい自分」や「やりたい仕事」について考え、行動して欲しいと願っています。

これらの支援を行っているのが「キャリアサポートセンター」〈京都太秦キャンパス：西館1階、京都亀岡キャンパス：楠風館1階〉です。



①マイステップ、適性診断テスト

学期ごとに学生生活の目標を設定し、達成度を確認します。学期ごとの取り組みを振り返ることで学生生活の充実と人間的成長を促します。

②公務員講座

公務員講座では、公務員（警察・消防も含む）を目指す方への学習プログラムを展開しています。1年次にはガイダンス、2年次からは講座がスタートしますので公務員志望者は是非参加してください。

③資格取得支援プログラム

マイクロソフトや秘書検定などの基本的な資格から、簿記会計や販売士、宅建、国内旅行業務など専門的な資格まで、各種講座をラインナップしています。

④インターンシップ・プログラム

本書「第4章大学共通 インターンシップ・プログラム」をご参照下さい。

⑤業界研究セミナー（主として3年次対象）

選者が本格的に始まる前の職業選択のために昨年では約60社の企業の方に来ていただき業界研究セミナーを実施しました。卒業生も多く在籍する企業など本学の学生を積極的に採用したいと思って参加頂いている企業が集まり、学生の皆さんに業界内容、仕事内容を案内されます。興味がないと思っていた企業でも話を聞くことで視野が広がりますので就職活動者は必ず参加してください。

⑥個人面談（主として3・4年次対象）

就職活動を進めるうえで、最も重要な要素のひとつです。履歴書の書き方から、各人の強み（自己PR）や志望動機など、希望職種・業界の求人情報など様々な就職活動に関する相談を受けています。就職活動に少しでも不安があればまず個人面談を利用してください。

⑦就職支援行事（主として3・4年次対象）

まず、ガイダンスを通じて本学の就職活動支援の概要を案内します。続いて、各種の対策講座（就職活動準備、自己分析、自己PR、履歴書、エントリーシート、志望動機、業界研究、面接）を展開していきます。このほか、特別講座として特定分野に特化した講座（女子メイク講座、公務員ガイダンス、留学生就職ガイダンスなど）も展開します。

⑧就職関連情報の提供

企業からの本学への求人を「先端なび」および「J-net 求人検索 NAVI」で公開します。このほか、学外での企業説明会、各種セミナーなどを紹介しています。また、本学への求人以外に各種就職サイトを通じて求人を探すことができます。

⑨就職筆記試験対策講座・SPI 試験

就職試験において課されることのあるSPI試験等の対策・学習を通して、基礎学力の補完を図るため集中講座を実施しています。キャリアサポートセンターでも夏と秋にSPIテストを実施しています。まず自分の実力を知るところから始めて下さい。

キャリアサポートセンター

みなさんの就職活動や資格取得の手助けをするのが「キャリアサポートセンター」〈京都太秦キャンパス：西館1階、京都亀岡キャンパス：楠風館1階〉です。

《京都太秦キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

《京都亀岡キャンパス窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

いずれのキャンパスも、夏期冬期等の休業期間中は、上記窓口取扱時間に変更になる場合があります。（その際は掲示で連絡します。）

主に、所属学科の授業が行われているキャンパスのキャリアサポートセンターがみなさんの窓口となります。